

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-152305

(P2012-152305A)

(43) 公開日 平成24年8月16日(2012.8.16)

(51) Int.Cl.
A63F 7/02 (2006.01)F I
A63F 7/02 326Aテーマコード (参考)
2C088

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 36 頁)

(21) 出願番号 特願2011-12483 (P2011-12483)
(22) 出願日 平成23年1月25日 (2011.1.25)(71) 出願人 000144522
株式会社三洋物産
愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号
(74) 代理人 100099667
弁理士 武政 善昭
(74) 代理人 100120101
弁理士 畑▲崎▼ 昭
(74) 代理人 100166062
弁理士 尾形 浩美
(72) 発明者 本庄 良和
愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社三洋物産内
Fターム(参考) 2C088 DA09 DA10 DA15 EA26

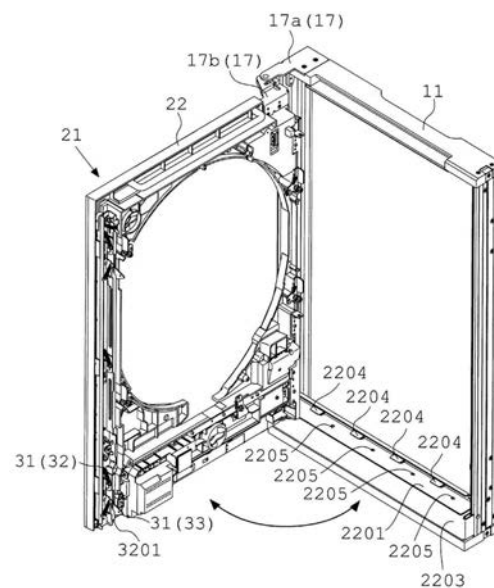
(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

【課題】遊技機主部と外枠とを分離した構成にすることで、遊技機主部をコンパクトにして容易に搬送でき、また遊技機主部を分離した外枠に迅速に取り付け、取り外しができると共に、その外枠と嵌合する部材が、遊技機主部を自立させることができ、円滑に入れ替え作業ができる。

【解決手段】遊技機主部21とこれを支持する外枠22とが分離する遊技機10であって、遊技機主部21の底部において、細長い板状の一端が展開自在になるように、その他端を遊技機主部21に回動自在に軸支されたヒンジ部材2201と、ヒンジ部材2201と着脱自在に係合させることができる係合部材2203を具備した外枠11と、を備え、外枠11に、遊技機主部21をヒンジ部材2201を介して着脱自在に固定し得るように構成した。

【選択図】図14



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

遊技機主部とこれを支持する外枠とが分離する遊技機であって、
遊技機主部の底部において、細長い板状の一端が展開自在になるように、その他端を該遊技機主部に回動自在に軸支されたヒンジ部材と、

前記ヒンジ部材と着脱自在に係合させることができる係合部材を具備した外枠と、を備え、

前記外枠に、前記遊技機主部を前記ヒンジ部材を介して着脱自在に固定し得るように構成した、ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記ヒンジ部材は、その長手方向に数箇所の固定用の係合横孔が開けられ、
前記外枠の係合部材は、各係合横孔に係合する係合片が複数形成された、ことを特徴とする請求項 1 の遊技機。

【請求項 3】

前記外枠の係合部材は、その長手方向に数箇所に位置決め用の出沒自在になる嵌合ピンを備え、

前記ヒンジ部材は、各嵌合ピンが嵌合する嵌合孔が開けられた、ことを特徴とする請求項 1 の遊技機。

【請求項 4】

前記外枠の係合部材に、前記ヒンジ部材の嵌合孔に嵌合している嵌合ピンを下から一時的に固定するストッパを、更に備えた、ことを特徴とする請求項 3 の遊技機。

【請求項 5】

前記ヒンジ部材に切り欠き状の被係止部を設け、
該被係止部に、施錠装置に設けられている鉤金具と連動する展開防止金具に係止するように構成した、ことを特徴とする請求項 1 の遊技機。

【請求項 6】

遊技機主部の底部において、細長い板状の一端が展開自在になるように、その他端を該遊技機主部に回動自在に軸支されたヒンジ部材を備え、

前記ヒンジ部材を、遊技機用島設備に固定された取付枠に設けられた係合部材に着脱自在に係合させ、

該取付枠に、前記遊技機主部を前記ヒンジ部材を介して着脱自在に固定し得るように構成した、ことを特徴とする遊技機。

【請求項 7】

前記ヒンジ部材は、その長手方向に数箇所の固定用の係合横孔が開けられ、
前記取付枠の係合部材は、各係合横孔に係合する係合片が複数形成された、ことを特徴とする請求項 6 の遊技機。

【請求項 8】

前記取付枠の係合部材には、その長手方向に数箇所に位置決め用の出沒自在になる嵌合ピンを備え、

前記ヒンジ部材は、各嵌合ピンが嵌合する嵌合孔が開けられた、ことを特徴とする請求項 6 の遊技機。

【請求項 9】

前記取付枠の係合部材には、前記ヒンジ部材の嵌合孔に嵌合している嵌合ピンを下から固定するストッパを、更に備えた、ことを特徴とする請求項 8 の遊技機。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、遊技機例えばパチンコ遊技機が並んで設置されるパチンコ島に設けられている矩形状の取付枠に遊技機を取り付ける際に用いる部材を備えた遊技機に関する。

【背景技術】

10

20

30

40

50

【 0 0 0 2 】

遊技機、例えばパチンコ遊技機の入れ替え時には、パチンコ島内を構成する個々の取付枠に、パチンコ遊技機をいわゆる木枠と称される木製の外枠と共に嵌め込む。このとき、取付枠に対してパチンコ遊技機をその上部を作業側側に傾斜させ、パチンコ遊技機の下部を先に嵌め込み、次にその上部を押し込むようにして嵌め込む。次に、この外枠に対して回動可能に取り付けられた遊技機主部を扉のように開ける。パチンコ島に嵌め込まれた遊技機の外枠の上部の内面から上方に向けて釘を数本上部枠板に打ち込む。同様に遊技機の外枠の下部の内面から下方に向けて釘を数本下部枠板に打ち込んで外枠をパチンコ島の取付枠に固定する。

【 0 0 0 3 】

例えば、外枠の上部に釘を2本、下部にも2本を打ち込んで固定する。なお、釘を完全に打ち込まず、釘の頭から5～6ミリ残しておく。打ち込んだだけでは島の上部枠板と下部枠板と外枠の間に隙間ができる。次に、釘の頭部をバールで引っ張ることにより、隙間が少なくなり固定される。釘の頭部を少し浮かすことによって次の入れ替えの際に簡単に抜けるようになっている。その後、パチンコ遊技機について所定の傾斜を調整する。

【 0 0 0 4 】

遊技機をパチンコ島の取付枠から取り外すときは、遊技機主部を扉のように開ける。遊技機の外枠の上部と下部から打ち込んだ釘を引き抜く。次に、パチンコ島の取付枠から遊技機を外枠と共に外し、遊技機全体を取り外す。

【 0 0 0 5 】

このような遊技機の入れ替えに際して、釘の引く抜きと新たな遊技機の釘の打ち込みが必要なため、作業の煩雑さは解消されないものであった。そこで、遊技機をパチンコ島の取付枠に容易に取り付け、取り外すことに関する技術について、例えば特許文献1の特開平7-51459号公報「パチンコ台の取付装置」が提案されている。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 6 】

【 特許文献1 】 特開平7-51459号公報

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 7 】

しかし、特許文献1の「パチンコ台の取付装置」では、パチンコ島の取付枠（取付板）両側面に、遊技機の外枠側と自在に着脱する別個の枠体を更に設ける構造である。そのために、パチンコ島の取付枠に枠体を更に設ける作業が必要になるという問題を有していた。

【 0 0 0 8 】

また、従来のこのような外枠付きの遊技機は、遊技機主部の周囲に木製と金属製の枠体（外枠）が一体になっているので、遊技機の入れ替えの際に、ホール内で嵩張り、入れ替え作業の邪魔になりやすいという問題を有していた。

【 0 0 0 9 】

そこで、本発明の発明者は、遊技機の島の枠板への固定手段を釘以外の手段にすることに着目した。遊技機主部から所謂外枠を分離し、遊技機主部のみを島に容易に取り付け、取り外すことにより、遊技機の入れ替えを短時間で終了することができ、かつ大量の遊技機をコンパクトに搬送できることに着目した。

【 0 0 1 0 】

本発明は、かかる問題点を解決するために創案されたものである。すなわち、本発明の目的は、遊技機主部と外枠とを分離した構成にすることで、遊技機主部をコンパクトにして容易に搬送でき、また遊技機主部を分離した外枠に迅速に取り付け、取り外しができると共に、その外枠と嵌合する部材が、遊技機主部を自立させることができ、円滑に入れ替え作業ができる遊技機を提供することにある。

10

20

30

40

50

【課題を解決するための手段】

【0011】

本発明は、遊技機主部とこれを支持する外枠とが分離する遊技機であって、遊技機主部の底部において、細長い板状の一端が展開自在になるように、その他端を該遊技機主部に回動自在に軸支されたヒンジ部材と、前記ヒンジ部材と着脱自在に係合させることができる係合部材を具備した外枠と、を備え、前記外枠に、前記遊技機主部を前記ヒンジ部材を介して着脱自在に固定し得るように構成した、ことを特徴とする。

【0012】

また、遊技機主部の底部において、細長い板状の一端が展開自在になるように、その他端を該遊技機主部に回動自在に軸支されたヒンジ部材を備え、前記ヒンジ部材を、遊技機用島設備に固定された取付枠に設けられた係合部材に着脱自在に係合させ、該取付枠に、前記遊技機主部を前記ヒンジ部材を介して着脱自在に固定し得るように構成した、ことを特徴とする。

【発明の効果】

【0013】

上記構成の発明では、遊技機主部が外枠から分離した構造になり、遊技機主部を外枠に装着する際に、遊技機ベースユニットに設けられたヒンジ部材を、外枠の係合部材に嵌合させることにより、遊技機主部と外枠とを強固に嵌合させることができる。入れ替え作業に際してこのヒンジ部材は、遊技機ベースユニットから展開した状態にすると、そのまま遊技機主部（遊技機ベースユニット）を自立させることができる。即ち、遊技機主部のみを交換するので、遊技機主部は下部が不安定な状態になるが、遊技機主部の下部に設けた可動自在になる下側部材が展開した状態になっていると、遊技機主部の転倒を防止することができ、遊技機主部を自立させることができる。

このヒンジ部材は、弾性部材の付勢力により係止を解除することで自動展開する構造になる。一方、ヒンジ部材を遊技機ベースユニットと平行に維持することで、従来の外枠と一体になった遊技機と比較してコンパクトに取り扱うことができる。

【0014】

特に、遊技機主部と外枠とが分離する構成であるために、最初に外枠をホールの島の上部枠板と下部枠板の間に釘固定しておくことにより、遊技機の入れ替えに際しては、遊技機主部のみを交換するだけで迅速に入れ替え作業を終了させることができる。

【0015】

このヒンジ部材は、そのまま枠体に嵌合する機能をあわせ持つ。更に、枠体に遊技機主部を取り付け後は、このヒンジ部材の弾性部材の付勢力が、そのまま遊技機主部を円滑に開けられるようになる。

【0016】

また、上記構成の発明では、遊技機主部が外枠から分離した構造になり、遊技機主部はコンパクトになり、嵩張らない。予め外枠に相当する枠体をパチンコ島に設置しておくことで、遊技機の入れ替えに際して、この枠体に遊技機主部が着脱自在に嵌合することができ、短時間でこの枠体に遊技機主部を取り付けることができる。また、遊技機主部を取り外すことができる。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】一実施の形態におけるパチンコ機を示す斜視図である。

【図2】パチンコ機の主要な構成を展開して示す斜視図である。

【図3】パチンコ機の主要な構成を展開して示す斜視図である。

【図4】パチンコ機の構成を示す背面図である。

【図5】遊技機ベースユニットの構成を示す正面図である。

【図6】遊技盤の構成を示す正面図である。

【図7】遊技機ベースユニットの構成を示す背面図である。

【図8】遊技機前面ユニットの構成を示す背面図である。

10

20

30

40

50

【図 9】裏バックユニットの構成を示す正面図である。

【図 10】裏バックユニットの構成を示す分解斜視図である。

【図 11】実施例 1 の展開自在になるヒンジ部材を備えた遊技機主部を示す斜視図である。

【図 12】実施例 1 の係合部材が設けられた外枠を示す斜視図である。

【図 13】外枠の係合部材に設けられた嵌合ピンを示す縦断面図であり、(a) はヒンジ部材を嵌合ピンに嵌合させる前の状態、(b) は嵌合させる途中の状態、(c) は嵌合させた状態である。

【図 14】実施例 1 の展開自在になるヒンジ部材を備えた遊技機主部 21 を、外枠 11 に嵌合させた状態を示す斜視図である。

10

【図 15】実施例 1 のヒンジ部材に設けられた回動弾性部材を示す拡大斜視図である。

【図 16】実施例 1 の施錠装置がヒンジ部材の展開を阻止している状態を示す拡大斜視図である。

【実施例 1】

【0018】

以下、本発明の好ましい実施の形態を図面を参照して説明する。

図 1 は本発明の実施例 1 のパチンコ機 10 の遊技機主部 21 と外枠 11 とが嵌合した状態を示す斜視図である。図 2 及び図 3 はパチンコ機 10 の主要な構成を展開して示す斜視図である。図 4 はパチンコ機 10 の背面図である。なお、図 2 では便宜上パチンコ機 10 の遊技領域内の構成を省略している。

20

パチンコ機 10 は、当該パチンコ機 10 の外殻を形成する外枠 11 と、この外枠 11 に対して前方に回動可能に取り付けられた遊技機主部 21 とを有する。特に、本発明では、後述するように、この外枠 11 と遊技機主部 21 とが着脱自在に分離する構造になっている。

【0019】

< 遊技機 10 の全体構成 >

外枠 11 は、板材 12 ~ 15 を四辺に連結し構成されるものであって矩形枠状をなしている。外枠 11 を構成する板材 12 ~ 15 は、左右の板材 12, 13 がアルミなどの金属製となっており、上下の板材 14, 15 が木製となっている。パチンコ機 10 は、外枠 11 の上下の板材 14, 15 を島設備に取り付け固定することにより、遊技ホールに設置される。

30

【0020】

上記のように左右の板材 12, 13 を金属製とするとともに上下の板材 14, 15 を木製とすることで、島設備への固定を可能としつつ外枠 11 の補強を行うことができる。なお、外枠 11 の構成は上記のものに限定されることはなく、全ての板材 12 ~ 15 を木製としてもよく、全ての板材 12 ~ 15 を金属製としてもよい。また、板材 12 ~ 15 の全部又は一部を合成樹脂製としてもよい。

【0021】

外枠 11 の左側の板材 12 には、その上下の各端部に支持金具 17, 18 が取り付けられている。これら支持金具 17, 18 に支持させるようにして、図 2 及び図 3 に示すように、遊技機主部 21 が外枠 11 に対して回動可能に取り付けられている。本発明は、これら支持金具 17, 18 に遊技機主部 21 を着脱自在に取り付ける構造になる。

40

【0022】

遊技機主部 21 は、遊技機ベースユニット（本体枠又は内枠）22 と、その遊技機ベースユニット 22 の前方に配置される遊技機前面ユニット（前面扉又は前枠）23 と、遊技機ベースユニット 22 の後方に配置される裏バックユニット 24 とを備えている。遊技機主部 21 のうち遊技機ベースユニット 22 が外枠 11 に対して回動可能に支持されている。詳細には、正面視で左側を回動基端（開閉基端）側とし右側を回動先端（開閉先端）側として遊技機ベースユニット 22 が前方へ回動可能（開閉可能）とされている。

【0023】

50

遊技機前面ユニット２３には、手前側へ膨出した第１膨出部９５が窓パネル部９１の下方に設けられており、その第１膨出部９５内側には、上方に開口した上皿９５ａが設けられている。上皿９５ａは、第１払出口２３１より払い出された遊技球を一旦貯留し、一列に整列させながら下流側（本実施の形態では右側）へ導くための球受皿である。

【００２４】

第１膨出部９５には、上皿９５ａの下流側に上皿球抜きスイッチ２３２が設けられるとともに、上皿９５ａの前方に貸球操作部２３３が配設されている。上皿球抜きスイッチ２３２は、上皿９５ａに貯留された遊技球を排出するために操作されるものである。

【００２５】

貸球操作部２３３には、球貸しボタン２３４と、返却ボタン２３５とが設けられている。球貸しボタン２３４は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が払い出される。返却ボタン２３５は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。

【００２６】

また、第１膨出部９５の前面側中央部には、球貸しボタン２３４と返却ボタン２３５との間に、遊技者により操作可能なプッシュ式の演出スイッチ２３６が設けられている。演出スイッチ２３６には図示しないランプが内蔵されており、選択操作が有効とされる状況下ではランプが点灯表示され、選択操作が無効とされる状況下ではランプが消灯表示されるようになっている。そして、当該ランプが点灯表示されている状況下で演出スイッチ２３６を操作された場合、後述する図柄表示装置７１の表示モードが変更されるようになっている。

【００２７】

遊技機前面ユニット２３の下部位置には、手前側へ膨出した第２膨出部９６が設けられており、その第２膨出部９６内側には、上方に開口した下皿９６ａが設けられている。下皿９６ａは、第２払出口２３７より払い出された遊技球を一旦貯留するための球受皿である。下皿９６ａには、例えば下皿球抜きスイッチ２３３を操作された場合、上皿９５ａに貯留された遊技球が第２払出口２３７より排出されるようになっている。

【００２８】

第２膨出部９６前面側には、下皿９６ａに貯留された遊技球を下方に排出するための上球抜きスイッチ２３８が設けられている。また、第２膨出部９６の右方には、手前側へ突出するようにして遊技球発射ハンドル８４が設けられている。遊技球発射ハンドル８４は、板材１２の背面側に設けられた遊技球発射機構８０（図５参照）に連結されており、上皿９５ａに貯留された遊技球は、遊技者が遊技球発射ハンドル８４を回転させることにより、遊技盤６１に形成された遊技領域に向けて発射される。

【００２９】

遊技機ベースユニット２２は、図２及び図３に示すように、外枠１１の開口全体を覆う大きさを有しており、その背面側であって回動先端側には施錠装置３１が取り付けられている。施錠装置３１は長尺状の連動杆３２を備えており、当該連動杆３２には上下一対の鉤金具３３が設けられている。外枠１１に対して遊技機ベースユニット２２を閉鎖した際には、鉤金具３３が外枠１１の右側の板材１３に設けられた受け金具３４に係止され、施錠装置３１により施錠状態とされるようになっている。また、遊技機ベースユニット２２にはシリンダ錠３５が設けられており、シリンダ錠３５の操作によって連動杆３２を上方向又は下方向のうち予め定められた方向に移動させると、外枠１１に対する遊技機ベースユニット２２の施錠状態が解除される。

【００３０】

遊技機ベースユニット２２には、図２に示すように、遊技機前面ユニット２３が回動可能に支持されており、正面視で左側を回動基端（開閉基端）側とし右側を回動先端（開閉先端）側として前方へ回動可能（開閉可能）とされている。また、遊技機ベースユニット２２には、図３に示すように、裏パックユニット２４が回動可能に支持されており、正面

10

20

30

40

50

視で左側を回動基端（開閉基端）側とし右側を回動先端（開閉先端）側として後方へ回動可能（開閉可能）とされている。

【 0 0 3 1 】

次に、遊技機ベースユニット 2 2、遊技機前面ユニット 2 3 及び裏パックユニット 2 4 のそれぞれについて詳細に説明する。

< 遊技機ベースユニット 2 2 >

まず、遊技機ベースユニット 2 2 の構成について詳細に説明する。図 5 は遊技機ベースユニット 2 2 の正面図である。図 6 は遊技機ベースユニット 2 2 に搭載された遊技盤 6 1 の正面図である。図 7 は遊技機ベースユニット 2 2 の背面図である。なお、図 5 では便宜上パチンコ機 1 0 の遊技領域内の構成を省略している。

10

【 0 0 3 2 】

遊技機ベースユニット 2 2 は、外形が外枠 1 1 とほぼ同一形状をなす樹脂ベース 4 1 を主体に構成されている。樹脂ベース 4 1 の中央部には略楕円形状の窓孔 5 1 が形成されている。樹脂ベース 4 1 にはその後方から遊技盤 6 1 が着脱可能に取り付けられている。詳細には、樹脂ベース 4 1 の裏面には、図 7 に示すように、複数（本実施の形態では 4 箇所）の固定金具 5 2 ~ 5 5 が設けられており、これら固定金具 5 2 ~ 5 5 によって遊技盤 6 1 は後方へ脱落しないように固定されている。固定金具 5 2 ~ 5 5 は手で回動操作することができ、固定位置（ロック位置）と固定解除位置（アンロック位置）とに切り換えることができるよう構成されている。

【 0 0 3 3 】

20

遊技盤 6 1 は合板よりなり、遊技盤 6 1 の前面に形成された遊技領域が樹脂ベース 4 1 の窓孔 5 1 を通じて遊技機ベースユニット 2 2 の前面側に露出した状態となっている。

【 0 0 3 4 】

ここで、遊技盤 6 1 の構成を図 6 に基づいて説明する。遊技盤 6 1 には、ルータ加工が施されることによって前後方向に貫通する大小複数の開口部が形成されている。各開口部には一般入賞口 6 2、可変入賞装置 6 3、上作動口 6 4、下作動口 6 5、スルーゲート 6 6 及び可変表示ユニット 6 7 等がそれぞれ設けられている。このうち、可変入賞装置 6 3、上作動口 6 4、下作動口 6 5 及び可変表示ユニット 6 7 は、遊技盤 6 1 の左右方向の中央において上下方向に並べて設けられており、上から可変表示ユニット 6 7、上作動口 6 4、下作動口 6 5 及び可変入賞装置 6 3 の順となっている。また、一般入賞口 6 2 は、遊技盤 6 1 の下部において、左側に 2 個及び右側に 2 個の合計 4 個設けられている。ちなみに、遊技盤 6 1 の左側は遊技機前面ユニット 2 3 の回動基端側に相当し、遊技盤 6 1 の右側は遊技機前面ユニット 2 3 の回動先端側に相当する。

30

【 0 0 3 5 】

一般入賞口 6 2、可変入賞装置 6 3、上作動口 6 4 及び下作動口 6 5 に遊技球が入球すると、それが検知スイッチにより検知され、その検知結果に基づいて所定数の賞球の払い出しが実行される。具体的には、一般入賞口 6 2 に一の遊技球が入球すると単位遊技球数として 1 0 個の遊技球が払い出され、可変入賞装置 6 3 に一の遊技球が入球すると単位遊技球数として 1 5 個の遊技球が払い出され、上作動口 6 4 に一の遊技球が入球すると単位遊技球数として 3 個の遊技球が払い出され、下作動口 6 5 に一の遊技球が入球すると単位遊技球数として 4 個の遊技球が払い出される。

40

【 0 0 3 6 】

その他に、遊技盤 6 1 の最下部にはアウト口 6 8 が設けられており、各種入賞口等に入らなかった遊技球はアウト口 6 8 を通って遊技領域から排出される。また、遊技盤 6 1 には、遊技球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘 6 9 が植設されていると共に、風車等の各種部材（役物）が配設されている。

【 0 0 3 7 】

可変表示ユニット 6 7 には、いずれかの作動口 6 4、6 5 への入賞をトリガとして図柄を可変表示する図柄表示装置 7 1 が設けられている。また、可変表示ユニット 6 7 には、図柄表示装置 7 1 を囲むようにしてセンターフレーム 7 2 が配設されている。センターフ

50

レーム 7 2 の上部には、第 1 特定ランプ部 7 3 及び第 2 特定ランプ部 7 4 が設けられている。また、センターフレーム 7 2 の上部及び下部にはそれぞれ保留ランプ部 7 5 , 7 6 が設けられている。下側の保留ランプ部 7 5 は、図柄表示装置 7 1 及び第 1 特定ランプ部 7 3 に対応しており、遊技球が作動口 6 4 , 6 5 を通過した回数は最大 4 回まで保留され保留ランプ部 7 5 の点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。上側の保留ランプ部 7 6 は、第 2 特定ランプ部 7 4 に対応しており、遊技球がスルーゲート 6 6 を通過した回数は最大 4 回まで保留され保留ランプ部 7 6 の点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。

【 0 0 3 8 】

図柄表示装置 7 1 は、液晶ディスプレイを備えた液晶表示装置として構成されており、後述する表示制御装置により表示内容が制御される。図柄表示装置 7 1 には、例えば左、中及び右に並べて図柄が表示され、これらの図柄が上下方向にスクロールされるようにして変動表示されるようになっている。そして、予め設定されている有効ライン上に所定の組合せの図柄が停止表示された場合には、特別遊技状態（以下、大当たりという）が発生することとなる。なお、図柄表示装置 7 1 は、C R T , ドットマトリックス , 7 セグメント等その他のタイプにより表示画面を構成したものであってもよい。

【 0 0 3 9 】

第 1 特定ランプ部 7 3 では、作動口 6 4 への入賞をトリガとして所定の順序で発光色の切り替えが行われ、予め定められた色で停止表示された場合には大当たりが発生する。また、第 2 特定ランプ部 7 4 では、遊技球のスルーゲート 6 6 の通過をトリガとして所定の順序で発光色の切り替えが行われ、予め定められた色で停止表示された場合には下作動口 6 5 に付随する電動役物 6 5 a が所定時間だけ開放状態となる。

【 0 0 4 0 】

ちなみに、下作動口 6 5 は、開閉手段としての電動役物 6 5 a が開放状態の場合に入球が可能となり、閉鎖状態の場合に入球が不可となる。なお、これに限定されることはなく、電動役物 6 5 a が開放状態の場合に入球し易くなり、閉鎖状態の場合に入球しがたくなる構成としてもよい。

【 0 0 4 1 】

可変入賞装置 6 3 は、開閉手段としての開閉扉 6 3 a が通常は遊技球が入球できない又は入球しがたい閉鎖状態になっており、大当たりの際に遊技球が入球しやすい所定の開放状態に切り換えられるようになっている。可変入賞装置 6 3 の開放態様としては、所定時間（例えば 3 0 秒間）の経過又は所定個数（例えば 1 0 個）の入賞を 1 ラウンドとして、複数ラウンド（例えば 1 5 ラウンド）を上限として可変入賞装置 6 3 が繰り返し開放されるものが一般的である。

【 0 0 4 2 】

遊技盤 6 1 には、内レール部 7 7 と外レール部 7 8 とが取り付けられており、これら内レール部 7 7 と外レール部 7 8 とにより誘導レールが構成され、遊技球発射機構から発射された遊技球が遊技領域の上部に案内されるようになっている。ちなみに、図 5 に示すように、樹脂ベース 4 1 の窓孔 5 1 の右上部には返しゴム 7 9 が設けられており、所定以上の勢いで発射された遊技球は返しゴム 7 9 に当たり、遊技領域の中央寄りに跳ね返されるようになっている。この場合、返しゴム 7 9 はその遊技球が当たる面が遊技領域の中央側に向けて傾斜させて形成されているため、遊技領域の中央に向けた遊技球の跳ね返しが良好に行われるようになっている。

【 0 0 4 3 】

遊技球発射機構 8 0 は、図 5 に示すように、樹脂ベース 4 1 における窓孔 5 1 の下方に取り付けられている。遊技球発射機構 8 0 は、電磁式のソレノイド 8 1 と、発射レール 8 2 と、球送り機構 8 3 とからなり、ソレノイド 8 1 への電氣的な信号の入力により当該ソレノイド 8 1 の出力軸が伸縮方向に移動し、球送り機構 8 3 によって発射レール 8 2 上に置かれた遊技球を遊技領域に向けて打ち出す。ソレノイド 8 1 への電氣的な信号の入力は、遊技機前面ユニット 2 3 の下部に設けられた遊技球発射ハンドル 8 4 （図 1 等参照）が

操作されることに基づいて発生する。

【 0 0 4 4 】

樹脂ベース 4 1 の前面における回動基端側にはその上端部及び下端部に支持金具 4 2 , 4 3 が取り付けられており、これら支持金具 4 2 , 4 3 に対して遊技機前面ユニット 2 3 が支持されていることで当該遊技機前面ユニット 2 3 が遊技機ベースユニット 2 2 に対して前方に回動可能となっている。また、樹脂ベース 4 1 の前面における回動先端側には、遊技機前面ユニット 2 3 の背面に設けられた鉤金具 4 4 (図 2 参照) を挿入するための挿入孔 4 5 が上下方向に離間させて複数設けられている。遊技機ベースユニット 2 2 に対して遊技機前面ユニット 2 3 を閉鎖した状態では、遊技機前面ユニット 2 3 の鉤金具 4 4 が挿入孔 4 5 内に入り込み、当該鉤金具 4 4 は上述した施錠装置 3 1 に係止される。これにより、遊技機ベースユニット 2 2 に対して遊技機前面ユニット 2 3 が施錠された状態となる。この施錠状態はシリンダ錠 3 5 の操作によって施錠装置 3 1 の連動杆 3 2 を、外枠 1 1 に対する遊技機ベースユニット 2 2 の解錠を行う場合とは反対側に移動させることで解除される。

10

【 0 0 4 5 】

< 遊技機前面ユニット 2 3 >

ここで、遊技機前面ユニット 2 3 の構成について説明する。図 8 は遊技機前面ユニット 2 3 の背面図である。

遊技機前面ユニット 2 3 は遊技機ベースユニット 2 2 の前面側全体を覆うようにして設けられている。遊技機前面ユニット 2 3 には、図 1 に示すように、上記遊技領域のほぼ全域を前方から視認することができるようにした略楕円形状の窓パネル部 9 1 が設けられている。窓パネル部 9 1 の周囲には、各種ランプ等の発光手段が設けられている。例えば、窓パネル部 9 1 の周縁に沿って LED 等の発光手段を内蔵した環状電飾部 9 2 が設けられている。環状電飾部 9 2 では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、環状電飾部 9 2 の中央であってパチンコ機 1 0 の最上部には所定のエラー時に点灯するエラー表示ランプ部 9 3 が設けられている。また、窓パネル部 9 1 の左上方及び右上方には、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカ部 9 4 が設けられている。

20

【 0 0 4 6 】

遊技機前面ユニット 2 3 における窓パネル部 9 1 の下方には、手前側へ膨出した上側膨出部 9 5 と下側膨出部 9 6 とが上下に並設されている。上側膨出部 9 5 内側には上方に開口した上皿 9 5 a が設けられており、下側膨出部 9 6 内側には同じく上方に開口した下皿 9 6 a が設けられている。上皿 9 5 a は、後述する払出装装置より払い出された遊技球を一旦貯留し、一列に整列させながら後述する遊技球発射機構側へ導くための機能を有する。また、下皿 9 6 a は、上皿 9 5 a 内にて余剰となった遊技球を貯留する機能を有する。なお、下側膨出部 9 6 の右方には、上述した遊技球発射ハンドル 8 4 が設けられている。

30

【 0 0 4 7 】

遊技機前面ユニット 2 3 の背面における回動基端側 (図 8 の右側) には、その上端部及び下端部に突起軸 9 7 , 9 8 が設けられている。これら突起軸 9 7 , 9 8 は遊技機ベースユニット 2 2 に対する組付機構を構成する。また、遊技機前面ユニット 2 3 の背面における回動先端側 (図 8 の左側) には、上述した鉤金具 4 4 が上下方向に複数並設されている。

40

【 0 0 4 8 】

また、遊技機前面ユニット 2 3 の背面には、図 8 に示すように、前面側通路ユニット 2 7 1 が取り付けられている。前面側通路ユニット 2 7 1 は、合成樹脂により成形されており、上皿 9 5 a に通じる前扉側上皿通路と、下皿 9 6 a に通じる前扉側下皿通路とが形成されている。前面側通路ユニット 2 7 1 の詳細については後に説明する。

【 0 0 4 9 】

< 遊技機ベースユニット 2 2 の背面構成 >

次に、遊技機ベースユニット 2 2 の背面構成について図 7 を用いて詳細に説明する。

50

樹脂ベース４１の背面における回動先端側には既に説明した施錠装置３１が設けられている。また、樹脂ベース４１の中央には上記のとおり遊技盤６１が取り付けられている。

【００５０】

遊技盤６１の中央に配置された可変表示ユニット６７には、図３及び図７に示すように、センターフレーム７２を後方から覆う合成樹脂製のフレームカバー１００が後方に突出させて設けられており、フレームカバー１００に対して後側から上述した図柄表示装置７１が取り付けられているとともに、その図柄表示装置７１を駆動するための表示制御装置１０１が取り付けられている。これら図柄表示装置７１及び表示制御装置１０１は前後方向に重ねて配置され（図柄表示装置７１が前、表示制御装置１０１が後）、さらにその後方に音声ランプ制御装置ユニット１０２が搭載されている。音声ランプ制御装置ユニット１０２は、音声ランプ制御装置１０３と、取付台１０４とを具備する構成となっており、取付台１０４上に音声ランプ制御装置１０３が装着されている。

10

【００５１】

音声ランプ制御装置１０３は、後述する主制御装置からの指示に従い音声やランプ表示、及び表示制御装置の制御を司る音声ランプ制御基板を具備しており、音声ランプ制御基板が透明樹脂材料等よりなる基板ボックスに収容されて構成されている。

【００５２】

遊技盤６１の背面であって可変表示ユニット６７の下方には、主制御装置ユニット１０５が搭載されている。主制御装置ユニット１０５は、合成樹脂製の取付台１０６を有し、取付台１０６に主制御装置１０７が搭載されている。主制御装置１０７は、遊技の主たる制御を司る機能（主制御回路）と、電源を監視する機能（停電監視回路）とを有する主制御基板を具備しており、当該主制御基板が透明樹脂材料等よりなる基板ボックス１０８に収容されて構成されている。なお、当該基板ボックス１０８には、当該基板ボックスの開放痕跡手段としてカシメ構造や図示しない封印シールが設けられているとともに、取付台１０６に対する主制御装置１０７の離脱痕跡手段としてカシメ構造が設けられている。

20

【００５３】

遊技盤６１の背面における主制御装置ユニット１０５により覆われた領域には、図示しない集合板ユニットが設けられている。集合板ユニットには、各種入賞口に入賞した遊技球を回収するための遊技球回収機構や、各種入賞口等への遊技球の入賞を検知するための入賞検知センサなどが設けられている。遊技球回収機構にて回収された遊技球は後述する排出通路を介してパチンコ機１０外部に排出される。また、入賞検知センサは主制御装置１０７と電気的に接続されており、遊技球の入賞を検知した場合の検知信号は主制御装置１０７にて入力される。

30

【００５４】

樹脂ベース４１の背面における回動基端側（図７の右側）には、軸受け金具１１１，１１２，１１３が取り付けられている。軸受け金具１１１～１１３は上下に離間させて３個設けられている。なお、軸受け金具１１１～１１３の数は任意であり、２個であってもよく、４個以上であってもよい。これら軸受け金具１１１～１１３に対して軸支させて遊技機ベースユニット２２には裏パックユニット２４が取り付けられている。裏パックユニット２４により、図５に示すように、可変表示ユニット６７の全部及び主制御装置ユニット１０５の一部が後方から覆われており、裏パックユニット２４を開放させない限り可変表示ユニット６７及び主制御装置ユニット１０５を樹脂ベース４１から取り外すことができないようになっている。

40

【００５５】

樹脂ベース４１の背面には、図３及び図７に示すように、裏パックユニット２４を遊技機ベースユニット２２に固定するための固定金具１１５が設けられている。固定金具１１５は手動で回動操作することができ、固定位置（ロック位置）と固定解除位置（アンロック位置）とに切り換えることができるよう構成されている。また、図７に示すように、樹脂ベース４１の背面には締結孔部１１６が形成されており、当該締結孔部１１６に対して裏パックユニット２４に設けられた締結具１１７（図９参照）を締結させることによって

50

も裏パックユニット 2 4 が遊技機ベースユニット 2 2 に固定される。

【 0 0 5 6 】

< 裏パックユニット 2 4 >

次に、裏パックユニット 2 4 の構成について詳細に説明する。図 9 は裏パックユニット 2 4 の正面図である。図 10 は裏パックユニット 2 4 の分解斜視図である。

裏パックユニット 2 4 は、当該裏パックユニット 2 4 の上部及び中央部分を構成する第 1 裏パックユニット 1 2 1 と、当該第 1 裏パックユニット 1 2 1 に連続させて設けられ裏パックユニット 2 4 の下部を構成する第 2 裏パックユニット 1 4 1 とを備えている。第 1 裏パックユニット 1 2 1 にはその下部に開口部 1 2 2 が形成されており、第 2 裏パックユニット 1 4 1 の上部は当該開口部 1 2 2 の下縁部分を構成している。

10

【 0 0 5 7 】

第 1 裏パックユニット 1 2 1 と第 2 裏パックユニット 1 4 1 には、図 9 に示すように、それぞれ軸金具 1 2 3 , 1 3 9 が設けられており、それら軸金具 1 2 3 , 1 3 9 はそれぞれ個別に軸受け金具 1 1 1 ~ 1 1 3 に支持されている。これにより、第 1 裏パックユニット 1 2 1 と第 2 裏パックユニット 1 4 1 とは、遊技機ベースユニット 2 2 に対してそれぞれ個別に回転可能となっている。

【 0 0 5 8 】

ここで、上記のとおり、第 2 裏パックユニット 1 4 1 はその上部が第 1 裏パックユニット 1 2 1 の開口部 1 2 2 の下縁部分を構成しており、当該下縁部分において、第 1 裏パックユニット 1 2 1 がパチンコ機 1 0 前方となるようにして第 1 裏パックユニット 1 2 1 と第 2 裏パックユニット 1 4 1 とが前後に重なっている。したがって、第 1 裏パックユニット 1 2 1 を遊技機ベースユニット 2 2 に対して閉鎖した状態で第 2 裏パックユニット 1 4 1 を開放させることはできるが、第 2 裏パックユニット 1 4 1 を閉鎖した状態で第 1 裏パックユニット 1 2 1 を開放させることはできない。なお、これに限定されることはなく、開閉の関係が第 1 裏パックユニット 1 2 1 と第 2 裏パックユニット 1 4 1 とで逆であってもよく、第 1 裏パックユニット 1 2 1 と第 2 裏パックユニット 1 4 1 とが相互に干渉することなく開閉可能な構成であってもよい。さらには、第 1 裏パックユニット 1 2 1 と第 2 裏パックユニット 1 4 1 とが一体化され個別に開閉できない構成としてもよい。

20

【 0 0 5 9 】

次に、第 1 裏パックユニット 1 2 1 の構成について詳細に説明する。

30

第 1 裏パックユニット 1 2 1 は、裏パック 1 2 4 を備えており、当該裏パック 1 2 4 に対して、払出機構部 1 2 5 が取り付けられている。裏パック 1 2 4 は透明性を有する合成樹脂により成形されており、払出機構部 1 2 5 などが取り付けられるベース部 1 2 6 と、パチンコ機 1 0 後方に突出し略直方体形状をなす保護カバー部 1 2 7 とを有する。保護カバー部 1 2 7 は左右側面及び上面が閉鎖され且つ下面のみが開放された形状をなし、少なくとも可変表示ユニット 6 7 を囲むのに十分な大きさを有する。

【 0 0 6 0 】

ベース部 1 2 6 には、その右上部に外部端子板 1 3 1 が設けられている。外部端子板 1 3 1 には各種の出力端子が設けられており、これらの出力端子を通じて遊技ホール側の管理制御装置に対して各種信号が出力される。また、ベース部 1 2 6 には上述した第 1 裏パックユニット 1 2 1 の軸金具 1 2 3 が設けられている。

40

【 0 0 6 1 】

ベース部 1 2 6 には、保護カバー部 1 2 7 を迂回するようにして払出機構部 1 2 5 が配設されている。払出機構部 1 2 5 は、タンク 1 3 2 と、タンクレール 1 3 3 と、上下通路ユニット 1 3 4 とを備えている。タンク 1 3 2 は上方に開放されており、裏パック 1 2 4 の最上部に設けられている。タンク 1 3 2 には遊技ホールの島設備から遊技球が逐次補給される。タンクレール 1 3 3 は、タンク 1 3 2 の下方において当該タンク 1 3 2 に連結されており、下流側に向けて緩やかに傾斜している。当該タンクレール 1 3 3 の下流部に連結させて上下通路ユニット 1 3 4 が設けられている。上下通路ユニット 1 3 4 は上下方向に延びており、その途中位置に払出装 1 3 5 が設けられている。また、上下通路ユニッ

50

ト 1 3 4 の下流側には、球受け部、裏バック側通路部、本体側通路部及び前面側通路部が設けられており、前面側通路部は上皿 9 5 a 及び下皿 9 6 a に連通されている。

【 0 0 6 2 】

つまり、タンク 1 3 2 と、上皿 9 5 a 及び下皿 9 6 a の受け皿との間には、タンクレール 1 3 3、上下通路ユニット 1 3 4、球受け部、裏バック側通路部、本体側通路部及び前面側通路部からなる誘導通路部が設けられており、タンク 1 3 2 に貯留されている遊技球は当該誘導通路部を通じて上皿 9 5 a 又は下皿 9 6 a に払い出される。なお、上下通路ユニット 1 3 4 の構成、及びそれよりも下流側の構成については後に詳細に説明する。

【 0 0 6 3 】

払出機構部 1 2 5 には、裏バック基板 1 3 6 が設置されている。裏バック基板 1 3 6 には、例えば交流 2 4 ボルトの主電源が供給され、電源スイッチ 1 3 7 の切替操作により電源 ON 又は電源 OFF とされるようになっている。

【 0 0 6 4 】

次に、第 2 裏バックユニット 1 4 1 の構成について詳細に説明する。

第 2 裏バックユニット 1 4 1 は、排出通路盤 1 4 2 と制御装置集合ユニット 1 4 3 とを備えている。排出通路盤 1 4 2 は第 2 裏バックユニット 1 4 1 の前側を構成し、制御装置集合ユニット 1 4 3 は第 2 裏バックユニット 1 4 1 の後側を構成している。そして、これら排出通路盤 1 4 2 と制御装置集合ユニット 1 4 3 とが前後に組み付けられて第 2 裏バックユニット 1 4 1 が構成されている。

【 0 0 6 5 】

排出通路盤 1 4 2 は、制御装置集合ユニット 1 4 3 と対向する面に後方に開放された排出通路 1 4 4 が形成されており、当該排出通路 1 4 4 の開放部は制御装置集合ユニット 1 4 3 によって塞がれている。排出通路 1 4 4 は、遊技ホールの島設備等へ遊技球を排出するように形成されており、上述した各種入賞口等から排出通路 1 4 4 に導出された遊技球は当該排出通路 1 4 4 を通ることでパチンコ機 1 0 外部に排出される。

【 0 0 6 6 】

制御装置集合ユニット 1 4 3 は、横長形状をなす取付台 1 4 5 を有し、取付台 1 4 5 に払出制御装置 1 4 6 と電源及び発射制御装置 1 4 7 とが搭載されている。これら払出制御装置 1 4 6 と電源及び発射制御装置 1 4 7 とは、払出制御装置 1 4 6 がパチンコ機 1 0 後方となるように前後に重ねて配置されている。

【 0 0 6 7 】

払出制御装置 1 4 6 は、基板ボックス 1 4 8 内に払出装 1 3 5 を制御する払出制御基板が収容されている。なお、払出制御装置 1 4 6 から払出装 1 3 5 への払出指令の信号は上述した裏バック基板 1 3 6 により中継される。また、払出制御装置 1 4 6 には状態復帰スイッチ 1 4 8 a が設けられている。例えば、払出装 1 3 5 における球詰まり等、払出エラーの発生時において状態復帰スイッチ 1 4 8 a が押されると、球詰まりの解消が図られるようになっている。

【 0 0 6 8 】

電源及び発射制御装置 1 4 7 は、基板ボックス 1 4 9 内に電源及び発射制御基板が収容されており、当該基板により、各種制御装置等で要する所定の電源が生成されて出力され、さらに遊技者による遊技球発射ハンドル 8 4 の操作に伴う遊技球の打ち出しの制御が行われる。また、電源及び発射制御装置 1 4 7 には RAM 消去スイッチ 1 4 9 a が設けられている。本パチンコ機 1 0 は各種データの記憶保持機能を有しており、万一停電が発生した際でも停電時の状態を保持し、停電からの復帰の際には停電時の状態に復帰できるようになっている。したがって、例えば遊技ホールの営業終了の場合のように通常手順で電源を遮断すると遮断前の状態が記憶保持されるが、RAM 消去スイッチ 1 4 9 a を押しながら電源を投入すると、RAM データが初期化されるようになっている。

【 0 0 6 9 】

< ヒンジ部材 2 2 0 1 の全体構成 >

図 1 1 は実施例 1 の展開自在になるヒンジ部材 2 2 0 1 を備えた遊技機主部 2 1 を示す

10

20

30

40

50

斜視図である。図 1 2 は実施例 1 の係合部材 2 2 0 3 が設けられた外枠 1 1 を示す斜視図である。

実施例 1 の遊技機 1 0 を構成する遊技機主部 2 1 は、その遊技機ベースユニット 2 2 の底面部に、この遊技機ベースユニット 2 2 の横方向と略同じ長さを有するヒンジ部材 2 2 0 1 を備えている。このヒンジ部材 2 2 0 1 は、その一端が遊技機ベースユニット 2 2 の下端の支持金具 1 8 に回動自在に軸支されている（図 1 5 参照）。このヒンジ部材 2 2 0 1 は遊技機ベースユニット 2 2 の上端の支持金具 1 7 と共に、外枠 1 1 に対する遊技機主部 2 1 のヒンジ機能を有する。

【 0 0 7 0 】

ヒンジ部材 2 2 0 1 は、図 1 1 に示すように、遊技機ベースユニット 2 2 の奥行きより広い幅を有する細長い板状の金属製の部材であり、その長手方向の一端端縁に、数箇所の固定用の係合横孔 2 2 0 2 が開けられている。係合横孔 2 2 0 2 は、ヒンジ部材 2 2 0 1 の金属板をその一端端縁を曲折し、その曲折した部分に開けられたものである。

【 0 0 7 1 】

< 外枠 1 1 の係合部材 2 2 0 3 の全体構成 >

外枠 1 1 には、図 1 2 に示すように、その内側下部に金属製又は合成樹脂製などの係合部材 2 2 0 3 が備えられている。この係合部材 2 2 0 3 には、ヒンジ部材 2 2 0 1 の係合横孔 2 2 0 2 に、水平方向から係合する係合片 2 2 0 4 が複数形成されている。図示例の係合部材 2 2 0 3 には、金属製の板材の 4 箇所に舌片を突出させ、この舌片の先端部を横断面が横 U 字状になるように曲折して成る係合片 2 2 0 4 を備えている。各係合片 2 2 0 4 は、ヒンジ部材 2 2 0 1 の係合横孔 2 2 0 2 にそれぞれ係合する。このように形成することで、ヒンジ部材 2 2 0 1 即ち遊技機ベースユニット 2 2 を、係合部材 2 2 0 3 即ち外枠 1 1 に強固に取り付けることができる。これは一例であり、このような 1 枚構成の金具に代えて、それぞれの係合横孔 2 2 0 2 に係合する位置に数個の係合片 2 2 0 4 を配置する手段でもよい。

【 0 0 7 2 】

また、外枠 1 1 の係合部材 2 2 0 3 には、その数箇所に位置決め用の嵌合ピン 2 2 0 6 を挿通させる嵌合挿通孔 2 2 0 7 が開けられている。各嵌合挿通孔 2 2 0 7 の配置間隔は、ヒンジ部材 2 2 0 1 の嵌合孔 2 2 0 5 の配置間隔と整合させてある。

【 0 0 7 3 】

一方、ヒンジ部材 2 2 0 1 には、図 1 1 に示すように、数箇所に位置決め用の嵌合孔 2 2 0 5 が上下方向に開けられている。各嵌合孔 2 2 0 5 には、外枠 1 1 に設けられた係合部材 2 2 0 3 を構成する部材の下面から上方へ付勢された嵌合ピン 2 2 0 6 が着脱自在に嵌合する。この嵌合ピン 2 2 0 6 は先端（図示上は上端）が半球状になっている。

【 0 0 7 4 】

図 1 3 は外枠 1 1 の係合部材 2 2 0 3 に設けられた嵌合ピン 2 2 0 6 を示す縦断面図であり、（ a ）はヒンジ部材 2 2 0 1 を嵌合ピン 2 2 0 6 に嵌合させる前の状態、（ b ）は嵌合させる途中の状態、（ c ）は嵌合させた状態である。

【 0 0 7 5 】

係合部材 2 2 0 3 には、図 1 3 に示すように、支持部材 2 2 0 8 に上下方向に出没自在に支持された嵌合ピン 2 2 0 6 が設けられている。この嵌合ピン 2 2 0 6 は、支持部材 2 2 0 8 に内装されたコイルばね等の弾性部材 2 2 0 9 により、第 1 フランジ 2 2 1 0 で上方へ付勢されている。図 1 3 （ a ）に示すように、嵌合ピン 2 2 0 6 はこの弾性部材 2 2 0 9 の付勢力で先端部が、係合部材 2 2 0 3 の嵌合挿通孔 2 2 0 7 からその半球状部分のみが露出するようになっている。

【 0 0 7 6 】

ヒンジ部材 2 2 0 1 を嵌合ピン 2 2 0 6 に嵌合させるとき、即ち遊技機主部 2 1 を外枠 1 1 に嵌合させるときは、図 1 3 （ b ）に示すように、この嵌合ピン 2 2 0 6 の先端部は半球状に形成されているために、ヒンジ部材 2 2 0 1 の下面が、係合部材 2 2 0 3 面上をスライドする際に、嵌合ピン 2 2 0 6 は弾性部材 2 2 0 9 に抗して容易に内部に引っ込む

10

20

30

40

50

。ヒンジ部材 2201 をスライドさせることができる。

【0077】

そのまま、遊技機主部 21 を外枠 11 に完全に嵌合させると、図 13 (c) に示すように、ヒンジ部材 2201 の嵌合孔 2205 の位置になると、弾性部材 2209 の付勢力で嵌合ピン 2206 の先端部が、各嵌合挿通孔 2207 を通過し、嵌合孔 2205 に嵌合し、位置決めとしての機能を発揮する。

【0078】

更に、ヒンジ部材 2201 と外枠 11 の係合部材 2203 とを確実に固定するために、支持部材 2208 には嵌合ピン 2206 のストッパ 2211 が水平方向にスライドするように設けられている。このストッパ 2211 は、図 13 (a) に示すように、嵌合ピン 2206 が嵌合孔 2205 に嵌合している状態を維持するものである。このストッパ 2211 は、嵌合ピン 2206 の外径よりやや広い幅を有する長孔 2212 を有し、かつこの長孔 2212 の一部は薄い部分 2213 (嵌合ピン 2206 の出没を可能にする位置) と一部は厚い部分 2214 (嵌合ピン 2206 の可動を阻止する位置) とからなっている。通常は、図 13 (a) に示すように、嵌合孔 2205 から突出するように付勢されているが、上方から内部に押すと弾性部材 2209 の付勢力に抗して嵌合ピン 2206 が内部に没するようになっている。

【0079】

図 13 (b) に示すように、このストッパ 2211 の長孔 2212 の厚い部分 2214 を、嵌合ピン 2206 側に移動させると、嵌合ピン 2206 の第 2 フランジ 2215 がこの長孔 2212 の厚い部分 2214 で固定され、図 13 (c) に示すように、嵌合ピン 2206 の突出した状態が維持される。これらのストッパ 2211 は数箇所それぞれで、嵌合ピン 2206 を固定するようにする。これにより、ヒンジ部材 2201 が係合部材 2203 から離脱しなくなり、強固に固定することができる。

【0080】

図 14 は実施例 1 の展開自在になるヒンジ部材 2201 を備えた遊技機主部 21 を、外枠 11 に嵌合させた状態を示す斜視図である。

このように構成された遊技機主部 21 と外枠 11 は、図 14 に示すように、遊技機主部 21 の遊技機ベースユニット 22 に設けられた支持金具 17b (17) を、外枠 11 に設けられた支持金具 17a (17) に装着する。次に、遊技機ベースユニット 22 に設けられたヒンジ部材 2201 を係合部材 2203 に嵌合させる。このときヒンジ部材 2201 は、外枠 11 の係合部材 2203 に嵌合させることにより、遊技機主部 21 と外枠 11 とを強固に嵌合させることができる。

【0081】

このときに、本発明のヒンジ部材 2201 は、図 11 に示したように、遊技機ベースユニット 22 から展開した状態にすると、そのまま遊技機主部 21 (遊技機ベースユニット 22) を自立させることができる。一方、ヒンジ部材 2201 を遊技機ベースユニット 22 と平行に維持することで、従来の外枠と一体になった遊技機 10 と比較してコンパクトに取り扱うことができる。

【0082】

また、本発明は遊技機主部 21 と外枠 11 とが分離する構成であるために、一番最初に外枠 11 をホールの島の上部枠板と下部枠板の間に釘固定しておく。遊技機 10 の入れ替えに際しては、遊技機主部 21 のみを交換するだけで迅速に入れ替え作業を終了させることができる。

【0083】

図 15 は実施例 1 のヒンジ部材 2201 に設けられた回動弾性部材 2216 を示す拡大斜視図である。

ヒンジ部材 2201 は、遊技機ベースユニット 22 の片側に軸支されている箇所には、このヒンジ部材 2201 を展開する方向へ付勢するようにコイルばね等の回動弾性部材 2216 が取り付けられている。図示するように、遊技機ベースユニット 22 に設けられた

10

20

30

40

50

支持金具 18 にボス孔 2217 を設け、このボス孔 2217 にヒンジ部材 2201 の軸部材 2218 を回動自在に取り付け、このボス孔 2217 の周囲に回動弾性部材 2216 を取り付けた。この回動弾性部材 2216 の付勢力により約直角方向に展開させることが望ましい。これはこのヒンジ部材 2201 が島に取り付ける前では、遊技機 10 を自立させる機能を持たせるためである。

【0084】

そこで、遊技機ベースユニット 22 から展開したときに、例えば、遊技機ベースユニット 22 の面方向から約 130 度から 140 度程度の角度で開くように設定する。これは、このヒンジ部材 2201 が展開角度が 90 度より小さいと、遊技機 10 を設置後にホール内で遊技機主部 21 を開ける際に、その内部の点検が容易に実施できないからである。逆に、約 140 度以上に展開すると、遊技機 10 を自立させる機能が発揮できないからである。

10

【0085】

そこで、ヒンジ部材 2201 の回動部分には、過展開を防止するヒンジ部材側停止片 2219 が設けられている。図 15 の図示例では、回動弾性部材 2216 のばね材の一端を固定する部材を兼用している。遊技機主部 21 側には下端部の支持金具 18 に、このヒンジ部材側停止片 2220 と接するユニット側停止片 2220 が設けられている。この両停止片 2219, 2220 が当接してヒンジ部材 2201 の過展開を防止する。

【0086】

本発明のヒンジ部材 2201 は、文字通りのヒンジ機能が第 1 の機能である。更に、上述したように回動弾性部材 2216 の付勢力により展開するようになっている。この展開したヒンジ部材 2201 は、遊技機ベースユニット 22 の転倒を防止する機能が第 1 の機能である。

20

【0087】

図 16 は実施例 1 の施錠装置 31 がヒンジ部材 2201 の展開を阻止している状態を示す拡大斜視図である。

ヒンジ部材 2201 の一部に切り欠き状の被係止部 2221 が設けられている。この被係止部 2221 には、施錠装置 31 の連動杆 32 の下側に設けられている鉤金具 33 の下端に更に下方へ延びる展開防止金具 3201 が係止する。この展開係止金具 3201 は、シリンダ錠 35 の操作によって連動杆 32 を上方向又は下方向のうち予め定められた方向に移動させると、外枠 11 に対する遊技機ベースユニット 22 の施錠状態が解除される。外枠 11 に対する遊技機ベースユニット 22 の施錠状態とされるようになっている。

30

【0088】

更に、本発明のヒンジ部材 2201 は回動弾性部材 2216 により常時展開するようになっている。そこで、このように、運搬時、格納時には遊技機ベースユニット 22 にヒンジ部材 2201 を格納してコンパクトにする必要がある。そこで、この遊技機ベースユニット 22 にヒンジ部材 2201 と並行状態にするために、施錠装置 31 の鉤金具 33 に展開防止金具 3201 を設けた。

【0089】

外枠 11 に対して遊技機ベースユニット 22 を閉鎖した際には、鉤金具 33 が外枠 11 の右側の板材 13 に設けられた受け金具 34 に係止され、施錠装置 31 により施錠状態とされるようになっている。なお、展開防止金具 2222 は、ヒンジ部材 2201 の被係止部 2221 とは完全に密着せず、いわゆる「遊び」を設けている。これはヒンジ部材 2201、遊技機ベースユニット 22 の設置状態のずれが生じたときにも対応でき、汎用性を高めるようにするためである。

40

【実施例 2】

【0090】

実施例 2 の本発明では、上述した外枠 11 に設けられた金属製又は合成樹脂製などの係合部材 2203 を、遊技機用島設備に固定された取付枠に設けた（図示していない）。予め、上述した外枠 11 と同じ構造の部材がホールの島に設けられている場合は、展開自在

50

のヒンジ部材 2 2 0 1 を備えた遊技機主部 2 1 をこの取付枠に嵌め込むだけで遊技機 1 0 の入れ替えが短時間で完了する。

この実施例 2 の本発明は、外枠 1 1 に設けられた係合部材 2 2 0 3 が取付枠に設けられたこと以外は、上述した構成と同様である。

例えば、ヒンジ部材には、その長手方向に数箇所の固定用の係合横孔が開けられ、取付枠の係合部材は、各係合横孔に係合する係合片が複数形成され、それぞれの係合片が係合横孔に係合するようになっている。

【 0 0 9 1 】

取付枠の係合部材には、その長手方向に数箇所に位置決め用の出沒自在になる嵌合ピンを備え、ヒンジ部材に開けられた嵌合孔に、各嵌合ピンが嵌合するようになっている。取付枠の係合部材には、ヒンジ部材の嵌合孔に嵌合している嵌合ピンをストッパで下から固定するようになっている。

【 0 0 9 2 】

なお、上述した実施の形態の記載内容に限定されず、例えば次のように実施してもよい。

(1) 上記実施の形態では、残存遊技球数が 2 9 個となるように、上下通路ユニット 1 3 4 において切換片から払出装置 1 3 5 の回転体までの通路長を設定したが、残存遊技球数は 2 9 個に限定されることはなく、単位遊技球数のいずれの整数倍とも一致しない数であれば具体的な数は任意である。例えば、上記実施の形態における単位遊技球数の設定において、残存遊技球数を 1 7 個、1 9 個、2 3 個等としてもよい。

【 0 0 9 3 】

(2) 入賞口 6 2 ~ 6 5 に対する単位遊技球数の設定は、上記実施の形態のものに限定されることはなく、任意である。但し、単位遊技球数の設定を変更した場合には、それら単位遊技球数のいずれの整数倍とも一致しないように残存遊技球数を変更する必要がある。ちなみに、可変入賞装置 6 3 に対する単位遊技球数を 1 5 個に代えて、1 4 個としてもよい。当該構成であっても、残存遊技球数を 2 9 個とすることで、上記実施の形態と同様の効果を得ることができる。

【 0 0 9 4 】

(3) 上記実施の形態では、単位遊技球数が異なる入賞口の種類を 4 種類としたが、これに限定されることはなく、1 種類、2 種類、3 種類又は 5 種類以上であってもよい。この場合であっても、残存遊技球数を単位遊技球数のいずれの整数倍とも一致しないようにすることで、上記実施の形態と同様の効果を得ることができる。

【 0 0 9 5 】

(4) 上記実施の形態では、図柄表示装置 7 1 を備えたパチンコ機 1 0 に対して本発明を適用したが、それ以外のタイプのパチンコ機に適用してもよい。例えば、遊技球転動部や有利口などが設けられた入賞役物装置を備えたパチンコ機や、他の役物を備えたパチンコ機、アレンジボール機、雀球等の遊技機にも、本発明を適用できる。また、受け皿として上皿 9 5 a 及び下皿 9 6 a が設けられているのではなく、単一の受け皿が設けられたパチンコ機にも、本発明を適用できる。

【 0 0 9 6 】

以下、上述した実施の形態から抽出される発明群の特徴について、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。

遊技機 A 1 .

遊技機、例えばパチンコ遊技機の入れ替え時には、パチンコ島内を構成する個々の取付枠に、パチンコ遊技機をいわゆる木枠と称される木製の外枠と共に嵌め込む。このとき、取付枠に対してパチンコ遊技機をその上部を作業側側に傾斜させ、パチンコ遊技機の下部を先に嵌め込み、次にその上部を押し込むようにして嵌め込む。次に、この外枠に対して回動可能に取り付けられた遊技機主部を扉のように開ける。パチンコ島に嵌め込まれた遊技機の外枠の上部の内面から上方に向けて釘を数本上部枠板に打ち込む。同様に遊技機の外枠の下部の内面から下方に向けて釘を数本下部枠板に打ち込んで外枠をパチンコ島の取

付枠に固定する。

【0097】

例えば、外枠の上部に釘を2本、下部にも2本を打ち込んで固定する。なお、釘を完全に打ち込まず、釘の頭から5～6ミリ残しておく。打ち込んだだけでは島の上部枠板と下部枠板と外枠の間に隙間ができる。次に、釘の頭部をバールで引っ張ることにより、隙間が少なくなり固定される。釘の頭部を少し浮かすことによって次回の入替の際に簡単に抜けるようになっている。その後、パチンコ遊技機について所定の傾斜を調整する。

【0098】

遊技機をパチンコ島の取付枠から取り外すときは、遊技機主部を扉のように開ける。遊技機の外枠の上部と下部から打ち込んだ釘を引き抜く。次に、パチンコ島の取付枠から遊技機を外枠と共に外し、遊技機全体を取り外す。

10

【0099】

このような遊技機の入替の際に、釘の引き抜きと新たな遊技機の釘の打ち込みが必要なため、作業の煩雑さは解消されないものであった。そこで、遊技機をパチンコ島の取付枠に容易に取り付け、取り外すことに関する技術について、例えば特許文献1の特開平7-51459号公報「パチンコ台の取付装置」が提案されている。

【特許文献1】特開平7-51459号公報

【0100】

しかし、特許文献1の「パチンコ台の取付装置」では、パチンコ島の取付枠（取付板）両側面に、遊技機の外枠側と自在に着脱する別個の枠体を更に設ける構造である。そのため、パチンコ島の取付枠に枠体を更に設ける作業が必要になるという問題を有していた。

20

【0101】

また、従来のこのような外枠付きの遊技機は、遊技機主部の周囲に木製と金属製の枠体（外枠）が一体になっているので、遊技機の入替の際に、ホール内で嵩張り、入れ替え作業の邪魔になりやすいという問題を有していた。

【0102】

そこで、本発明の発明者は、遊技機の島の枠板への固定手段を釘以外の手段にすることに着目した。遊技機主部から所謂外枠を分離し、遊技機主部のみを島に容易に取り付け、取り外すことにより、遊技機の入替を短時間で終了することができ、かつ大量の遊技機をコンパクトに搬送できることに着目した。

30

【0103】

本発明は、かかる問題点を解決するために創案されたものである。すなわち、本発明の目的は、遊技機主部と外枠とを分離した構成にすることで、遊技機主部をコンパクトにして容易に搬送でき、また遊技機主部を分離した外枠に迅速に取り付け、取り外しができると共に、その外枠と嵌合する部材が、遊技機主部を自立させることができ、円滑に入れ替え作業ができる遊技機を提供することにある。

【0104】

遊技機A1は、遊技機主部とこれを支持する外枠とが分離する遊技機であって、

遊技機主部の底部において、細長い板状の一端が展開自在になるように、その他端を該遊技機主部に回動自在に軸支されたヒンジ部材と、

40

前記ヒンジ部材と着脱自在に係合させることができる係合部材を具備した外枠と、を備え、

前記外枠に、前記遊技機主部を前記ヒンジ部材を介して着脱自在に固定し得るように構成した、ことを特徴とする遊技機。

遊技機A1では、遊技機主部が外枠から分離した構造になり、遊技機主部を外枠に装着する際に、遊技機ベースユニットに設けられたヒンジ部材を、外枠の係合部材に嵌合させることにより、遊技機主部と外枠とを強固に嵌合させることができる。入れ替え作業に際してこのヒンジ部材は、遊技機ベースユニットから展開した状態にすると、そのまま遊技機主部（遊技機ベースユニット）を自立させることができる。即ち、遊技機主部のみを交

50

換するので、遊技機主部は下部が不安定な状態になるが、遊技機主部の下部に設けた可動自在になる下側部材が展開した状態になっていると、遊技機主部の転倒を防止することができ、遊技機主部を自立させることができる。

このヒンジ部材は、弾性部材の付勢力により係止を解除することで自動展開する構造になる。一方、ヒンジ部材を遊技機ベースユニットと平行に維持することで、従来の外枠と一体になった遊技機と比較してコンパクトに取り扱うことができる。

【 0 1 0 5 】

特に、遊技機主部と外枠とが分離する構成であるために、最初に外枠をホールの島の上部枠板と下部枠板の間に釘固定しておくことにより、遊技機の入れ替えに際しては、遊技機主部のみを交換するだけで迅速に入れ替え作業を終了させることができる。

10

遊技機 A 2 は、前記ヒンジ部材は、その長手方向に数箇所の固定用の係合横孔が開けられ、

前記外枠の係合部材は、各係合横孔に係合する係合片が複数形成された、ことを特徴とする遊技機 1 の遊技機。

遊技機 A 2 では、このように形成することで、ヒンジ部材（遊技機ベースユニット）を、係合部材（外枠）に強固に取り付けることができる。

遊技機 A 3 は、前記外枠の係合部材は、その長手方向に数箇所に位置決め用の出沒自在になる嵌合ピンを備え、

前記ヒンジ部材は、各嵌合ピンが嵌合する嵌合孔が開けられた、ことを特徴とする遊技機 A 1 の遊技機。

20

遊技機 A 3 では、この嵌合ピンが出沒自在になるので、ヒンジ部材を係合部材面上をスライドさせるように閉止させるだけで、嵌合ピンを嵌合孔に嵌合させることができ、位置決めとしての機能を発揮する。

遊技機 A 4 は、前記外枠の係合部材に、前記ヒンジ部材の嵌合孔に嵌合している嵌合ピンを下から一時的に固定するストッパを、更に備えた、ことを特徴とする遊技機 A 3 の遊技機。

遊技機 A 4 では、ストッパを嵌合ピン側に移動させると、嵌合ピンを突出した状態で維持することにより、嵌合ピンを一時的に固定することができ、ヒンジ部材が係合部材から外れないようにすることができる。

遊技機 A 5 は、前記ヒンジ部材に切り欠き状の被係止部を設け、

30

該被係止部に、施錠装置に設けられている鉤金具と連動する展開防止金具が係止するように構成した、ことを特徴とする遊技機 A 1 の遊技機。

遊技機 A 5 では、この展開係止金具が、シリンダ錠の操作によって連動杆を上方向又は下方向のうち予め定められた方向に移動させると、外枠に対する遊技機ベースユニットの施錠状態が解除される。外枠に対する遊技機ベースユニットの施錠状態とすることができる。運搬時、格納時に、この展開防止金具により遊技機ベースユニット 2 2 にヒンジ部材を格納してコンパクトにすることができる。

【 0 1 0 6 】

遊技機 A 6 は、遊技機主部の底部において、細長い板状の一端が展開自在になるように、その他端を該遊技機主部に回動自在に軸支されたヒンジ部材を備え、

40

前記ヒンジ部材を、遊技機用島設備に固定された取付枠に設けられた係合部材に着脱自在に係合させ、

該取付枠に、前記遊技機主部を前記ヒンジ部材を介して着脱自在に固定し得るように構成した、ことを特徴とする遊技機。

遊技機 A 6 では、遊技機主部が外枠から分離した構造になり、遊技機主部はコンパクトになり、嵩張らない。予め外枠に相当する枠体をパチンコ島に設置しておくことで、遊技機の入れ替えに際して、この枠体に遊技機主部が着脱自在に嵌合することができ、短時間でこの枠体に遊技機主部を取り付けることができる。また、遊技機主部を取り外すことができる。

遊技機 A 7 は、前記ヒンジ部材は、その長手方向に数箇所の固定用の係合横孔が開けら

50

れ、

前記取付枠の係合部材は、各係合横孔に係合する係合片が複数形成された、ことを特徴とする遊技機 A 6 の遊技機。

遊技機 A 8 は、前記取付枠の係合部材には、その長手方向に数箇所位置決め用の出沒自在になる嵌合ピンを備え、

前記ヒンジ部材は、各嵌合ピンが嵌合する嵌合孔が開けられた、ことを特徴とする遊技機 A 6 の遊技機。

遊技機 A 9 は、前記取付枠の係合部材には、前記ヒンジ部材の嵌合孔に嵌合している嵌合ピンを下から固定するストッパを、更に備えた、ことを特徴とする遊技機 A 8 の遊技機。

10

【0107】

遊技機 10、A 1 ~ A 9 のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機である。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示装置において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

20

【0108】

遊技機 10、A 1 ~ A 9 のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機である。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

30

【0109】

遊技機 10、A 1 ~ A 9 のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機である。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

40

【産業上の利用可能性】

【0110】

本発明の遊技機は、主にパチンコ機の遊技機に利用することができるが、遊技球を一時停止させる構成の遊技機であれば、パチンコ機以外の様々な遊技機に利用することができる。

【符号の説明】

【0111】

10 遊技機としてのパチンコ機

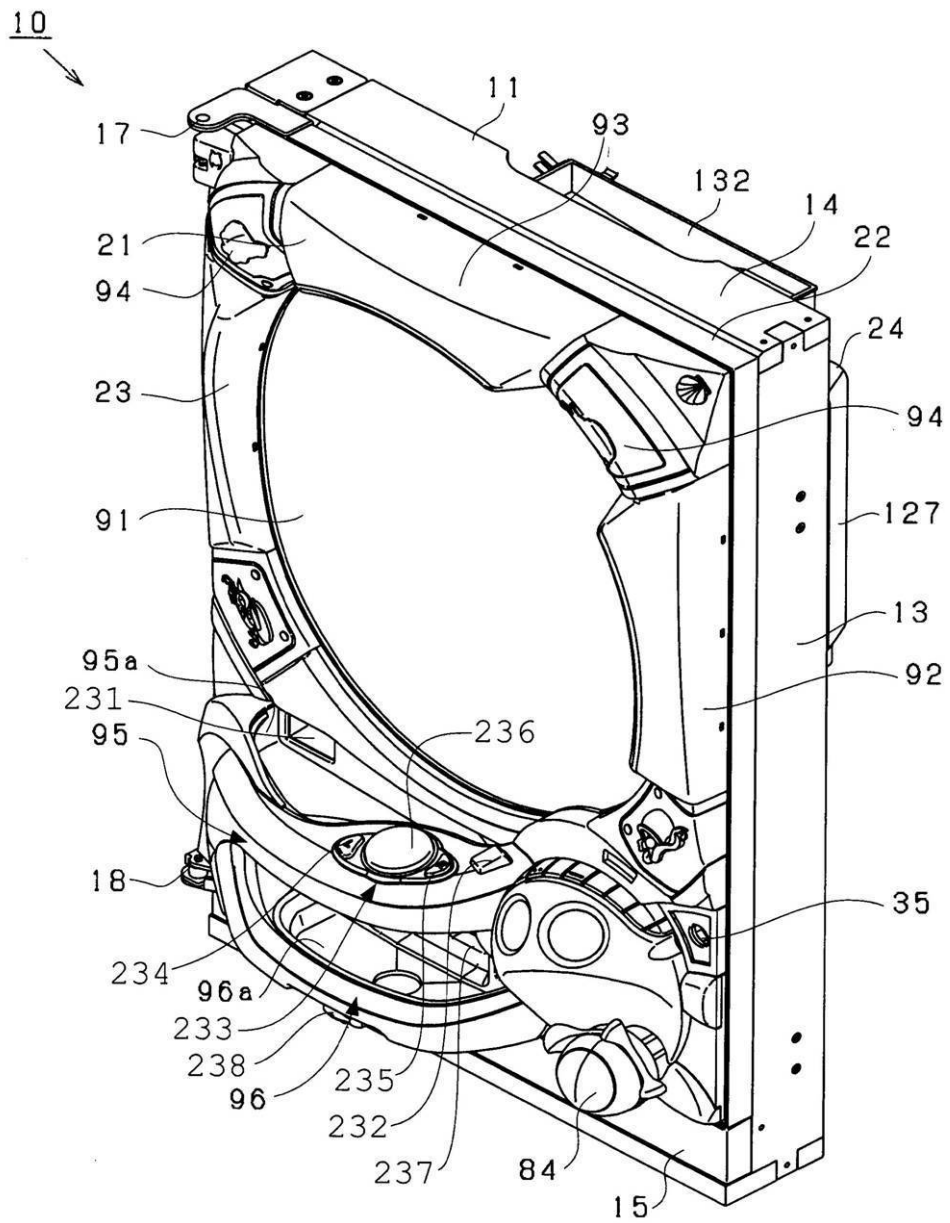
17b (17) 支持金具

50

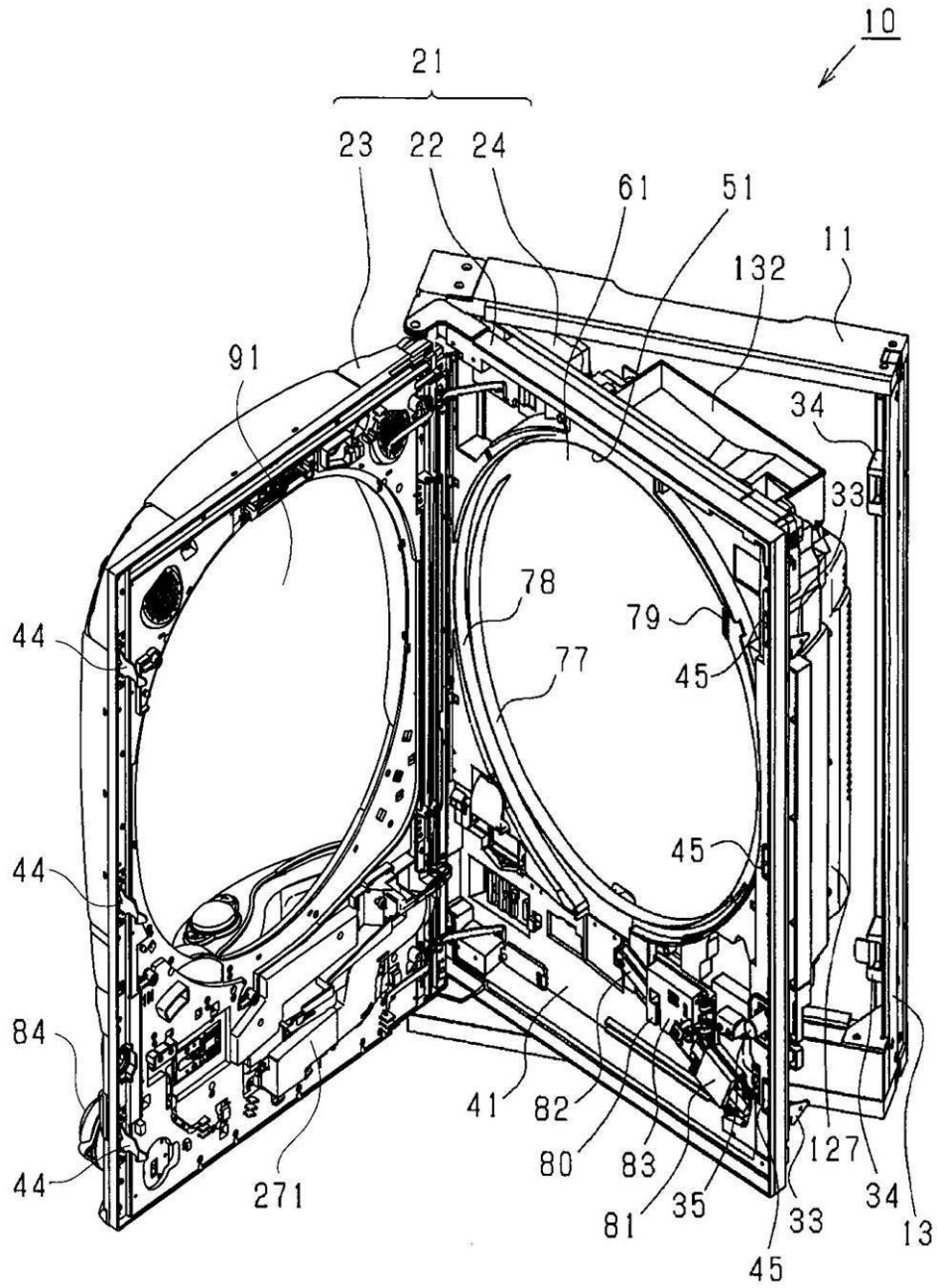
1 7 a (1 7)	支持金具	
1 8	支持金具	
2 2	遊技機本体としての遊技機ベースユニット	
2 2 0 1	ヒンジ部材	
2 2 0 2	係合横孔	
2 2 0 3	係合部材	
2 2 0 4	係合片	
2 2 0 5	嵌合孔	
2 2 0 6	嵌合ピン	
2 2 0 7	嵌合挿通孔	10
2 2 0 8	支持部材	
2 2 0 9	弾性部材	
2 2 1 0	第 1 フランジ	
2 2 1 1	ストッパ	
2 2 1 2	長孔	
2 2 1 3	長孔の薄い部分	
2 2 1 4	長孔の厚い部分	
2 2 1 5	第 2 フランジ	
2 2 1 6	回動弾性部材	
2 2 1 7	ボス孔	20
2 2 1 8	軸部材	
2 2 1 9	ヒンジ部材側停止片	
2 2 2 0	ユニット側停止片	
2 2 2 1	被係止部	
2 3	遊技機前面体としての遊技機前面ユニット	
3 1	施錠装置	
3 2	連動杆	
3 2 0 1	展開防止金具	
6 1	遊技盤	
6 2	開放入球部としての一般入賞口	30
6 3	開閉入球部としての可変入賞装置	
6 3 a	開閉手段としての開閉扉	
6 4	開放入球部としての上作動口	
6 5	開閉入球部としての下作動口	
6 5 a	開閉手段としての電動役物	
7 1	図柄表示装置	
8 0	遊技球発射機構	
8 4	遊技球発射ハンドル	
9 1	窓パネル部	
9 5	第 1 膨出部	40
9 5 a	外側貯留部としての上皿	
9 5 b	貯留部	
9 5 c	ねじボス	
9 5 d	周縁	
9 5 e	反し部	
9 6 a	外側貯留部としての下皿	
1 0 3	音声ランプ制御装置	
1 0 7	主制御装置	
1 3 2	内側貯留部としてのタンク	
1 3 5	払出装置	50

1 4 6 払出制御装置

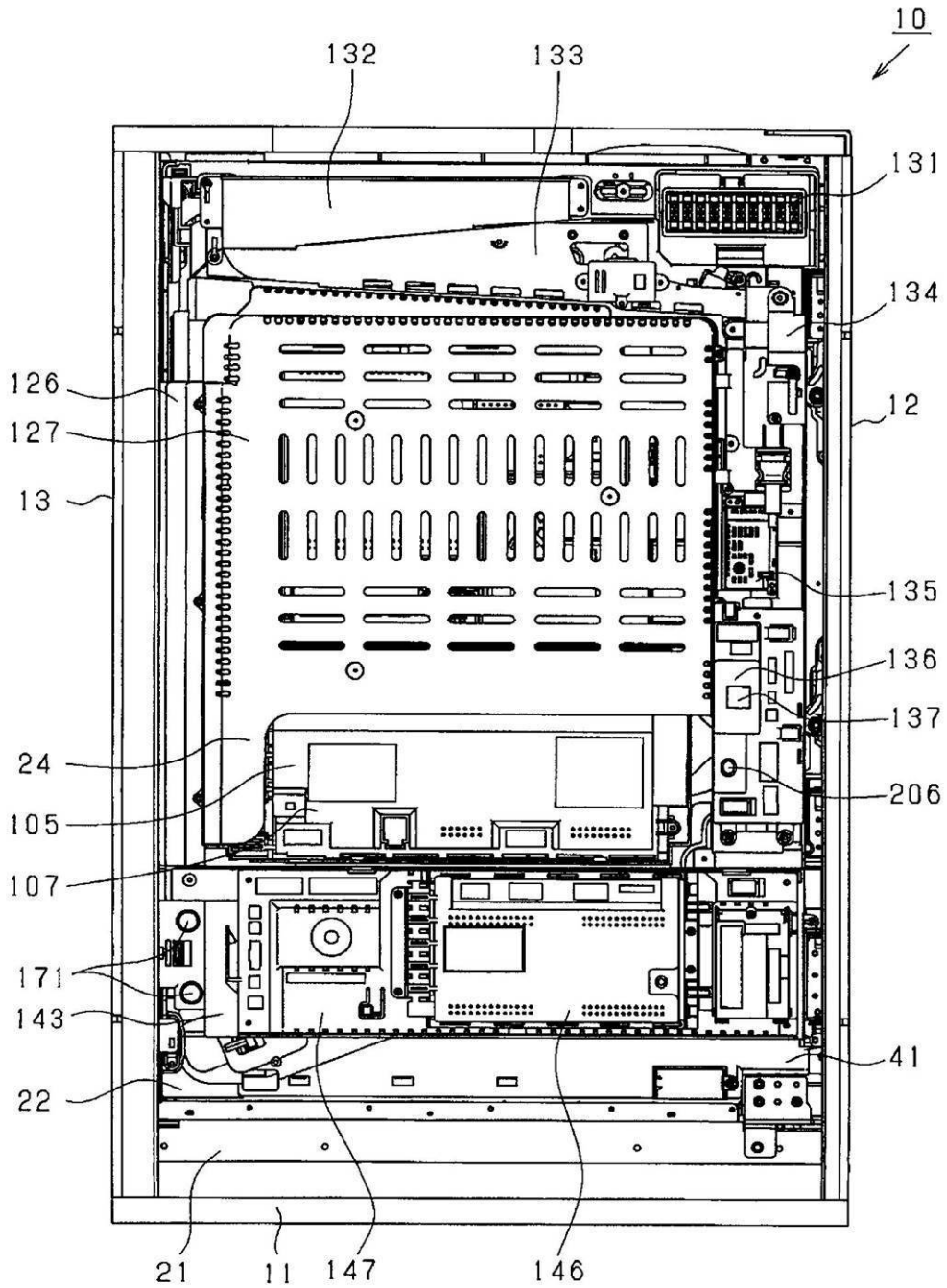
【図 1】



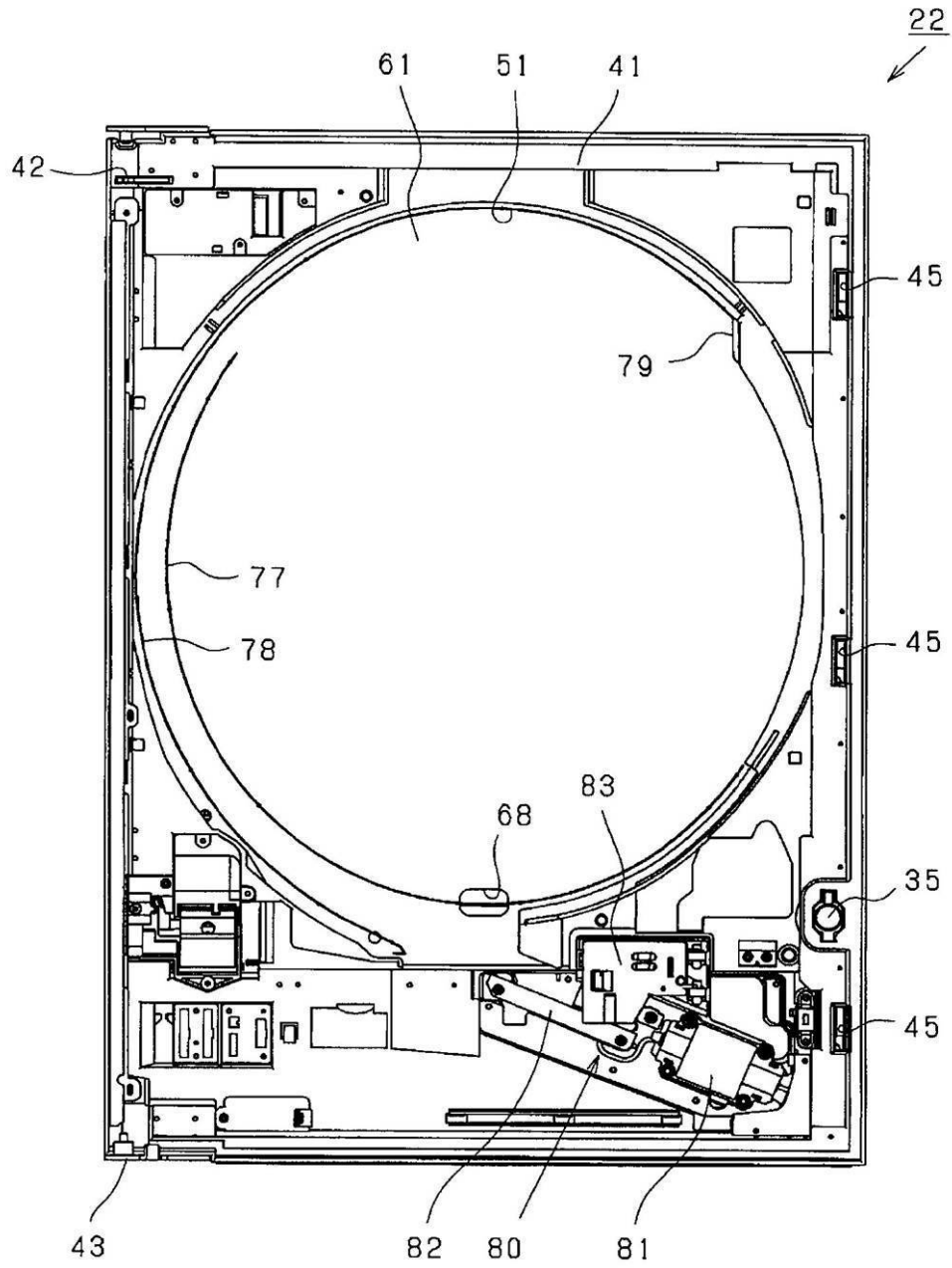
【図 2】



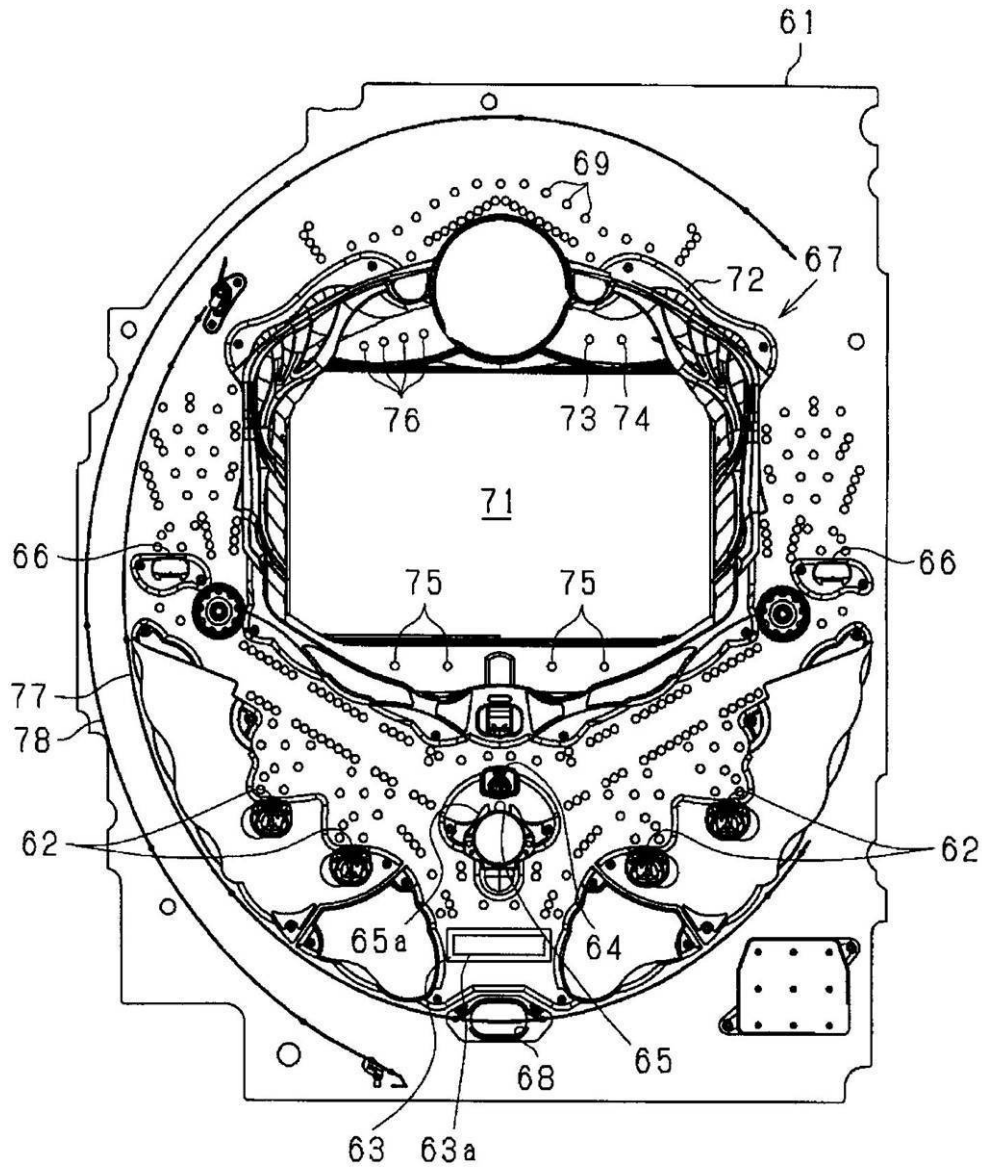
【図 4】



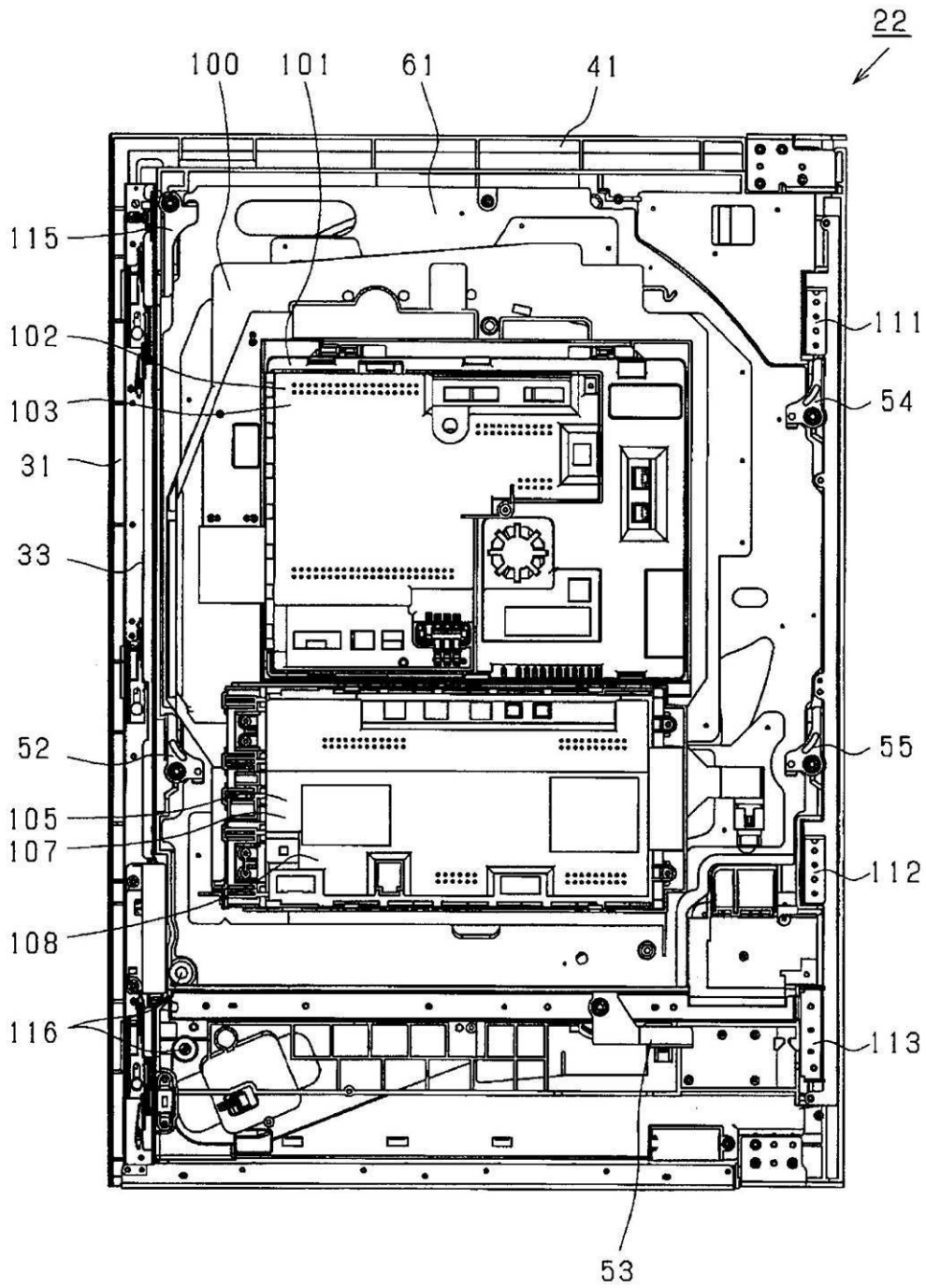
【図 5】



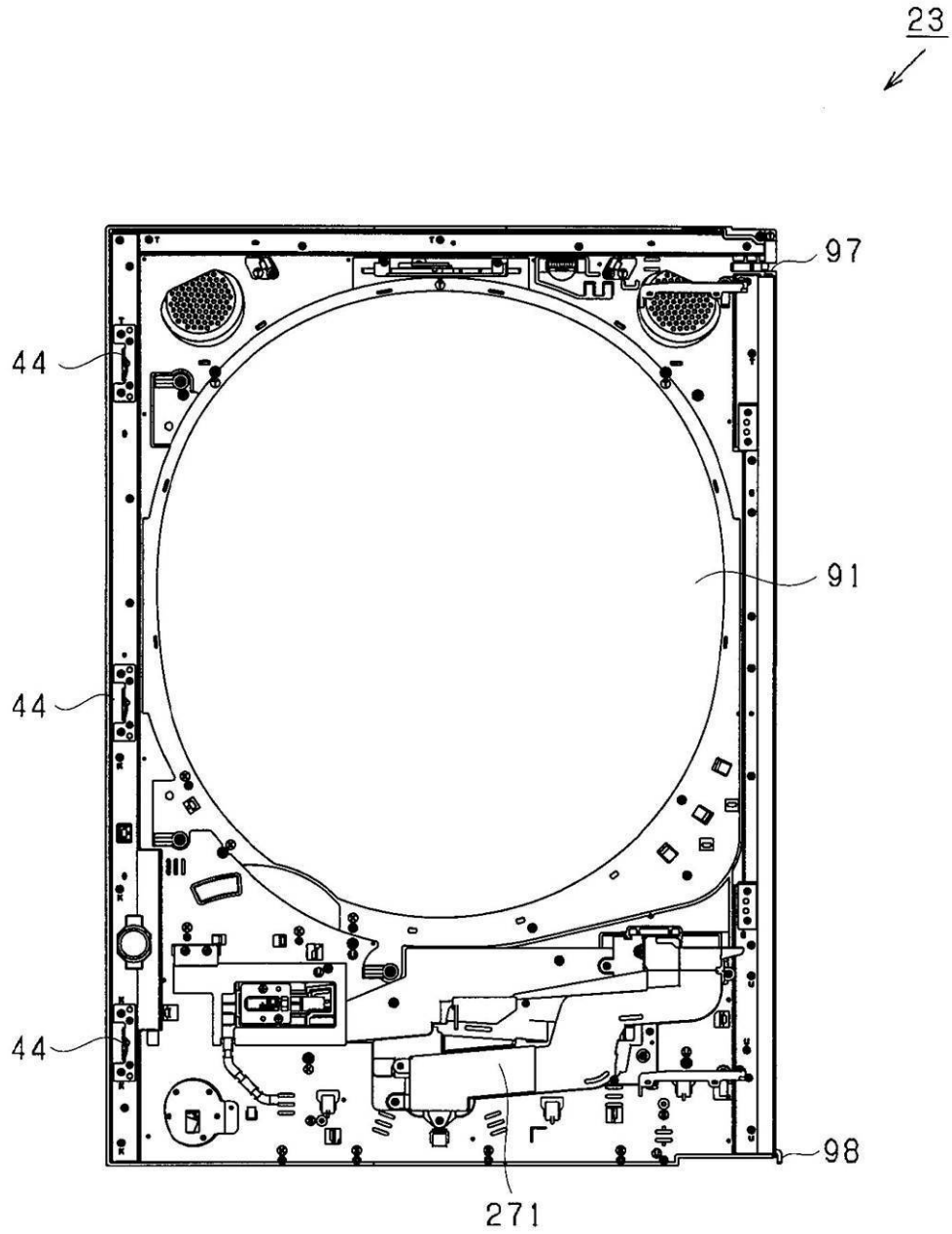
【図 6】



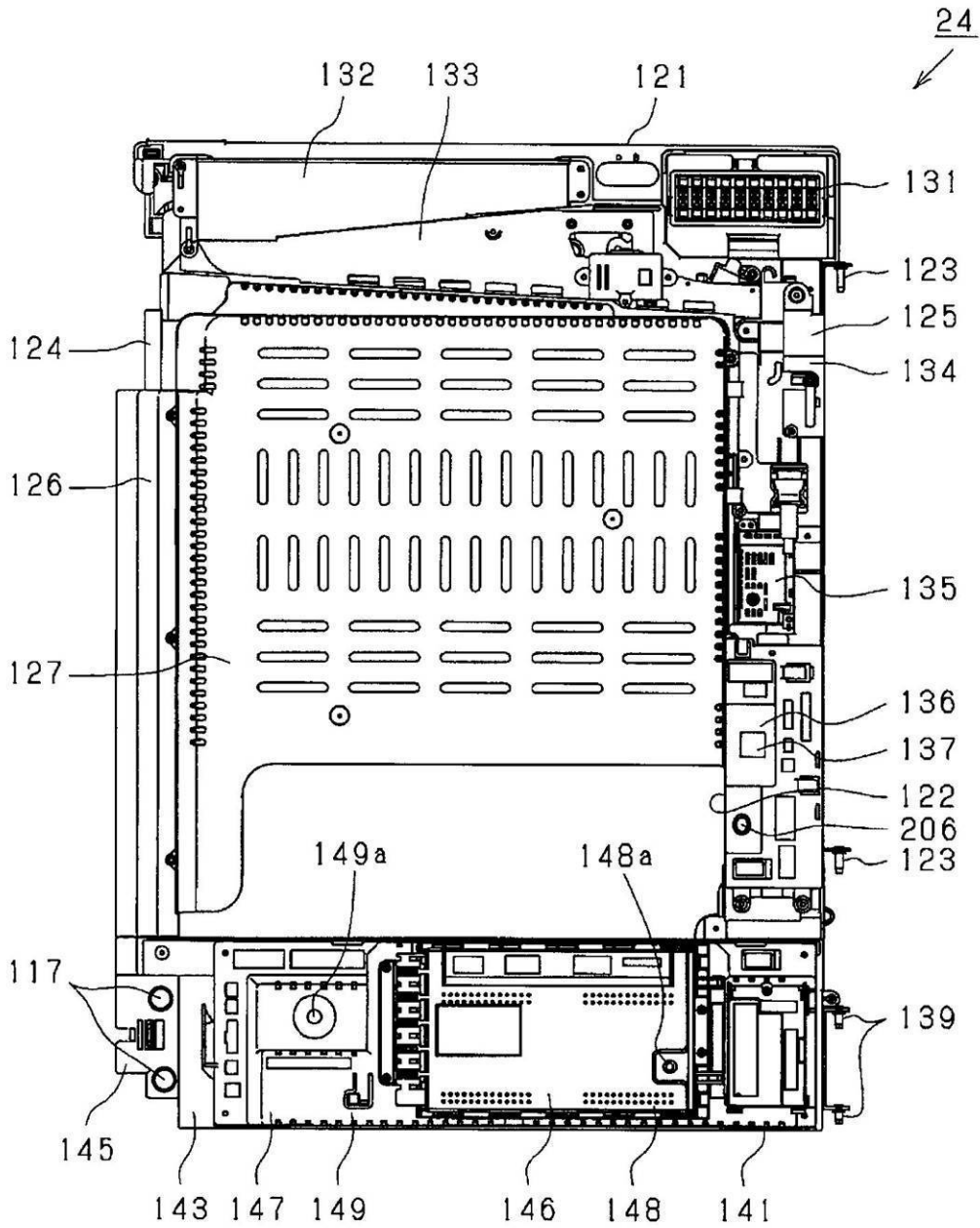
【図 7】



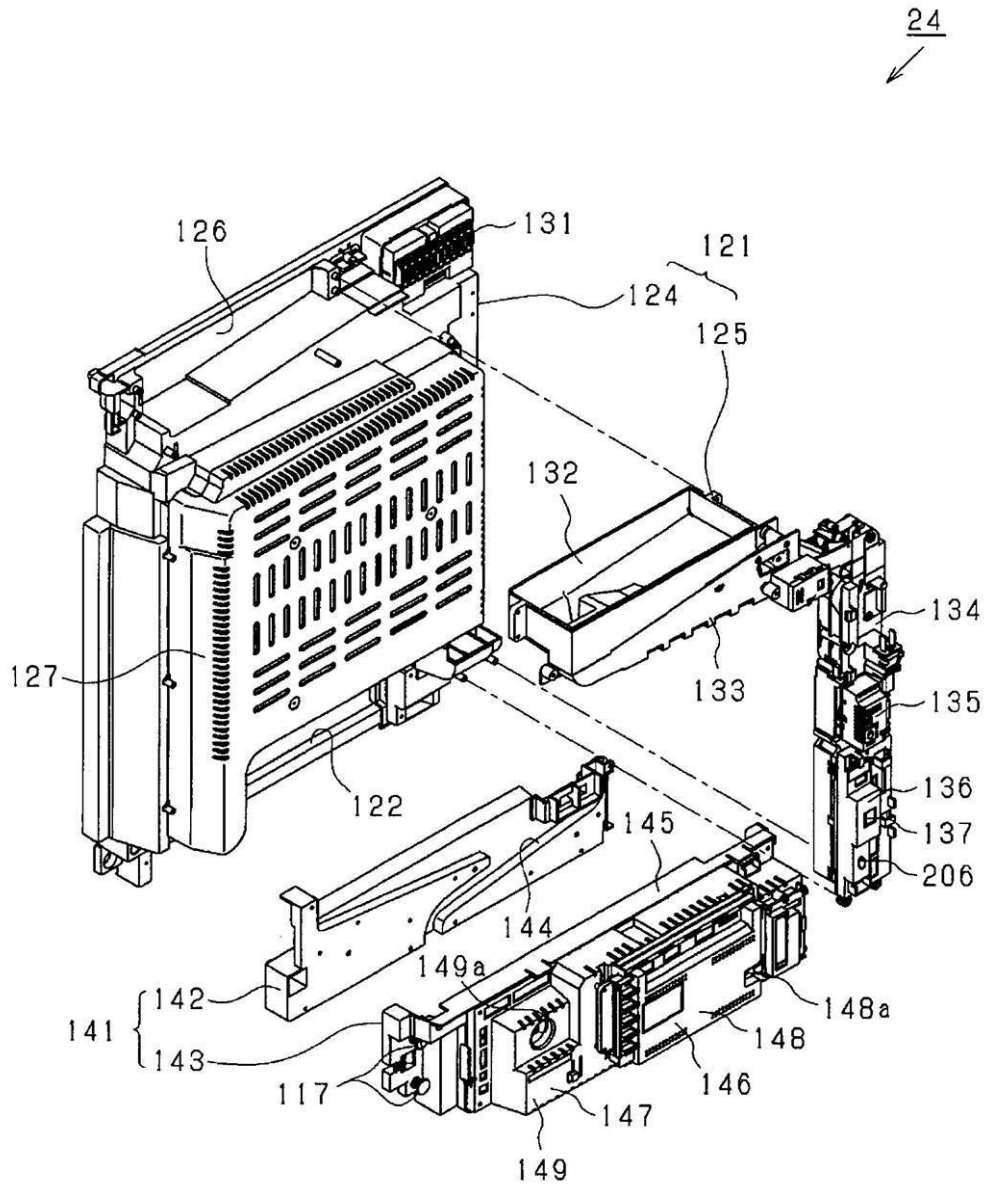
【図 8】



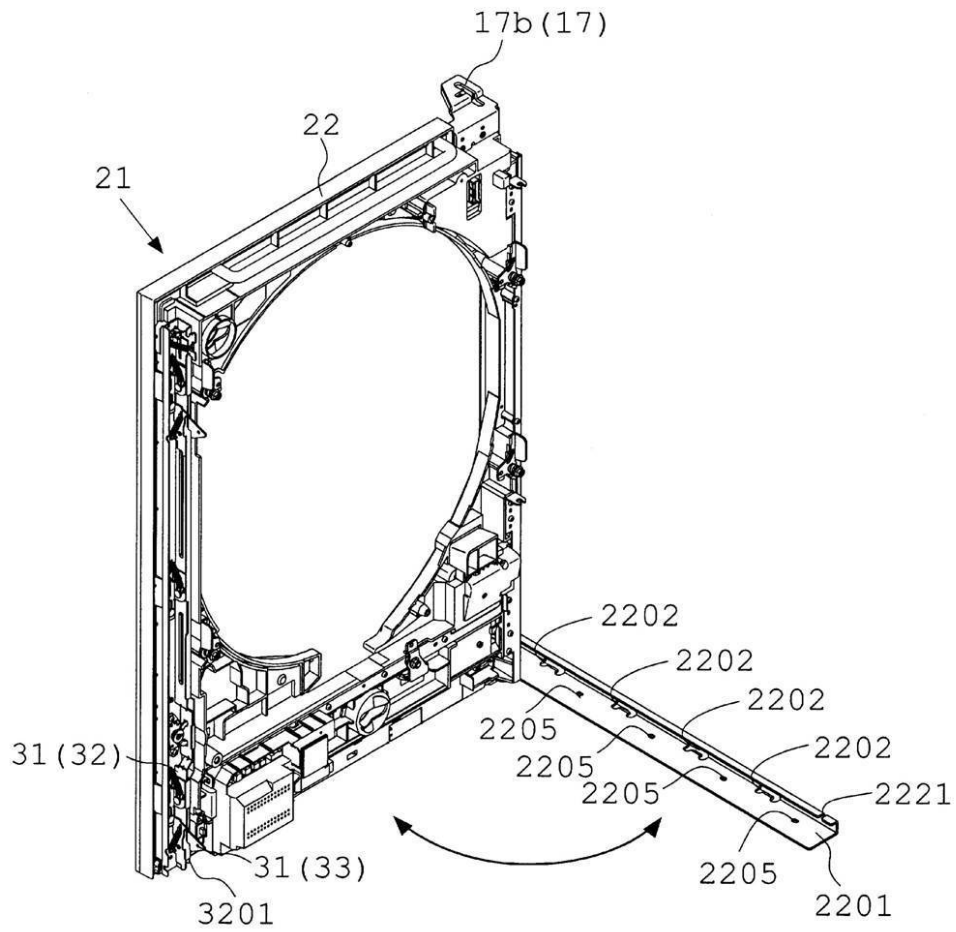
【図 9】



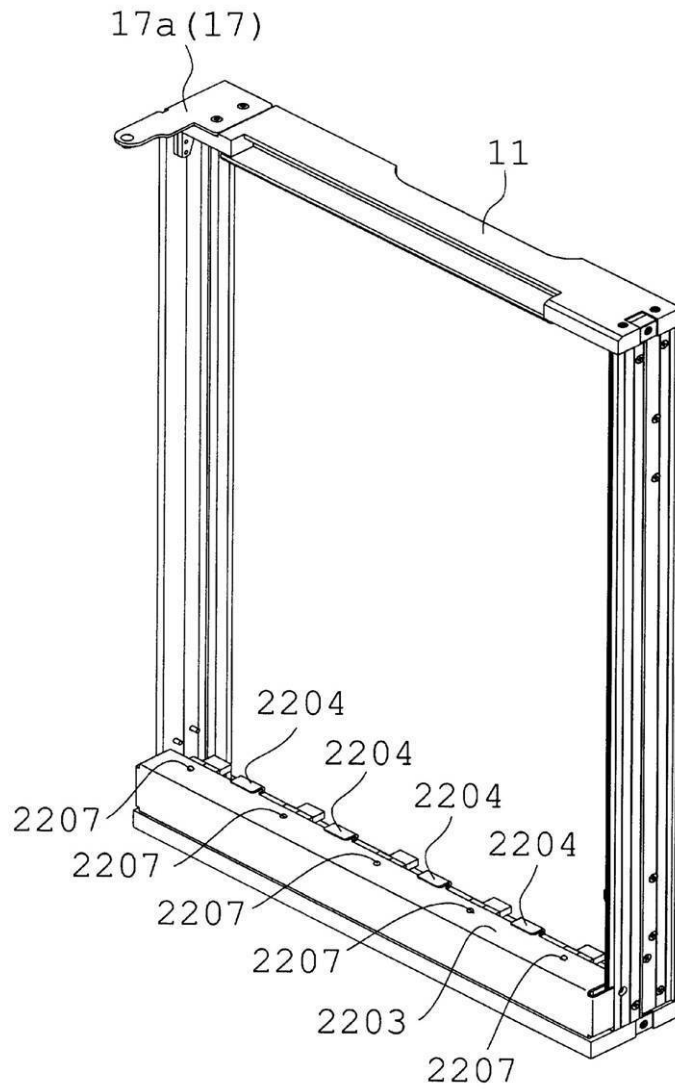
【図 10】



【図 11】

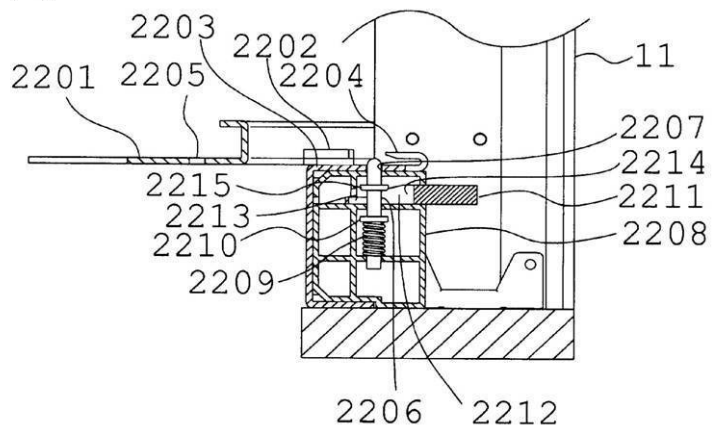


【図 12】

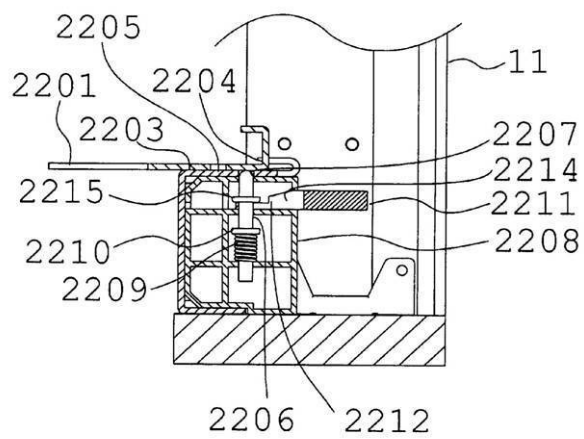


【図 13】

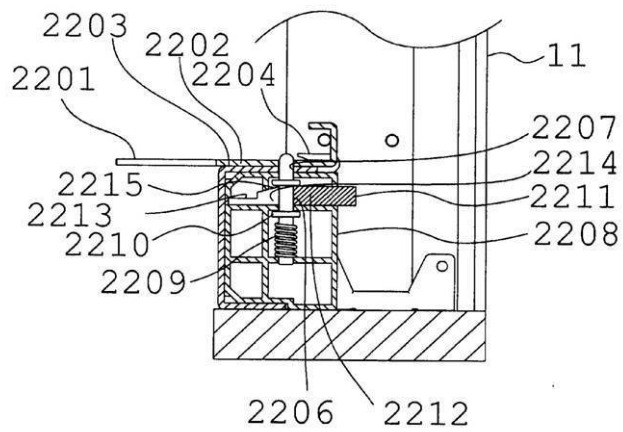
(a)



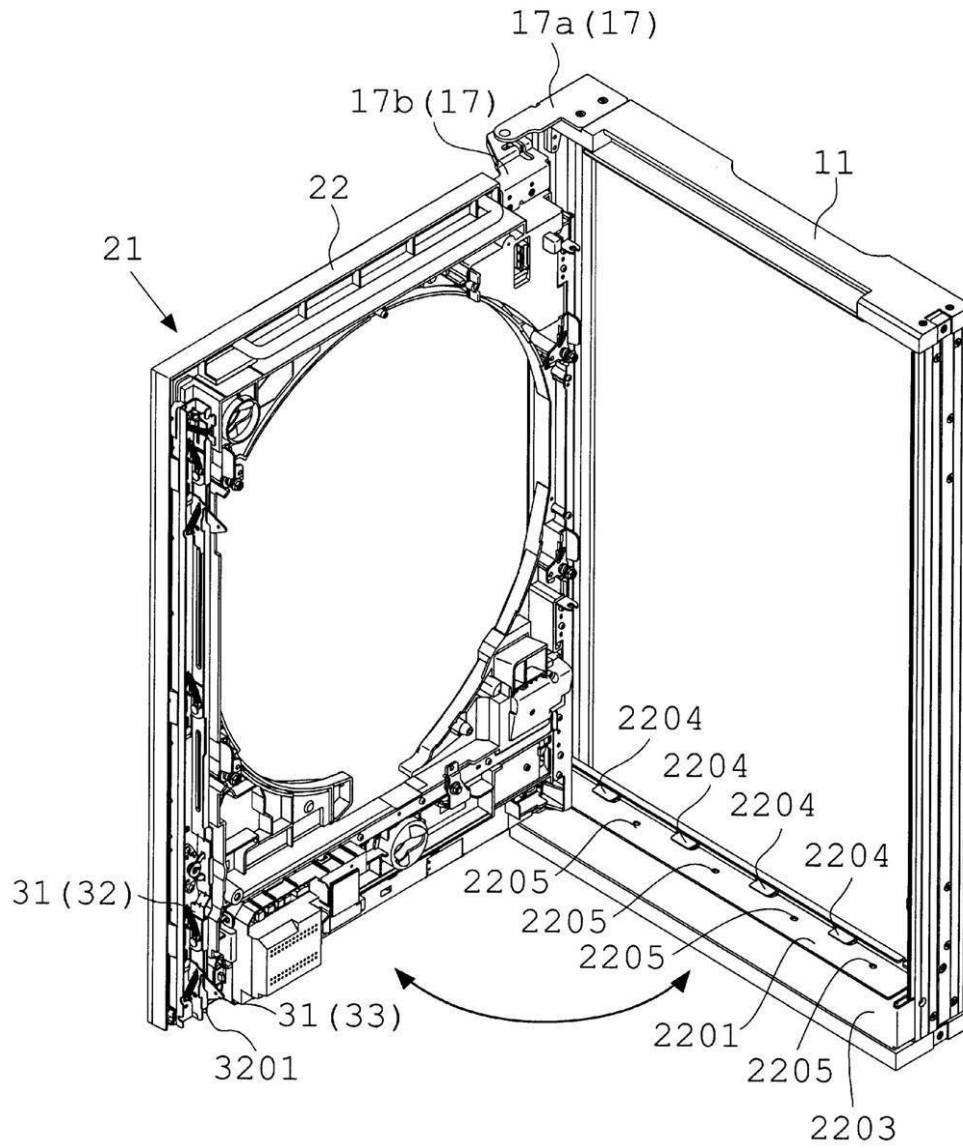
(b)



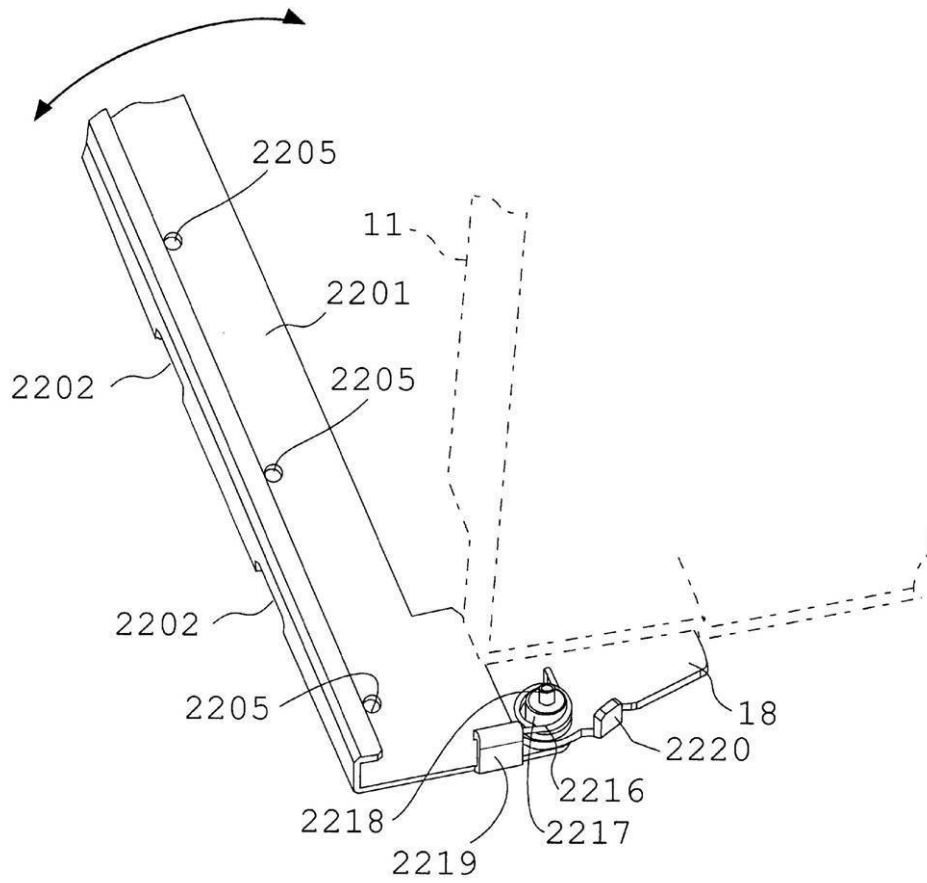
(c)



【図 14】



【図 15】



【図 16】

